

令和4年度神奈川県海岸漂着物組成調査業務委託

報 告 書

令和5年2月

日本エヌ・ユー・エス株式会社

# 目 次

1.	業務概要	1
1.1	委託業務名	1
1.2	目的	1
1.3	委託期間	1
1.4	委託業務の内容	1
1.4.1	調査地点	1
1.4.2	調査期日及び回数	1
1.4.3	事前踏査等	1
1.4.4	漂着ごみの回収・分析等	4
1.4.5	漂着ごみの処理	5
1.4.6	調査結果報告書の作成	5
2.	本調査の調査結果	6
2.1	三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）	6
2.1.1	組成調査	6
2.1.2	発生源の推定	14
2.2	引地川河口部右岸（藤沢市）	15
2.2.1	組成調査	15
2.2.2	発生源の推定	23
2.2.3	補完調査	24
2.3	金目川河口部左岸（平塚市）	28
2.3.1	組成調査	28
2.3.2	発生源の推定	36
2.4	酒匂川河口部右岸（小田原市）	37
2.4.1	組成調査	37
2.4.2	発生源の推定	45
	添付資料	46
	添付資料1：事前踏査のとりまとめ結果	47
	添付資料2：データシート①～②及び製造国の特定	51
	添付資料3：野帳の写し	71
	添付資料4：回収された漂着ごみの品目ごとの写真	86

## 1. 業務概要

### 1.1 委託業務名

令和4年度神奈川県海岸漂着物組成調査業務委託

### 1.2 目的

本委託業務は、相模湾及び東京湾沿岸で発生する海岸漂着物（以下「漂着ごみ」とする。）の実態の把握及び発生源の推定を行い、今後の海岸美化に資する基礎資料の作成を目的とした。

### 1.3 委託期間

令和4年10月28日～令和5年2月28日

### 1.4 委託業務の内容

別添「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（令和3年10月 第3版）」（以下、「ガイドライン」という。）に準じ、以下に定めるとおり、本委託業務を実施した。

#### 1.4.1 調査地点

調査地点は、表 1.4-1、図 1.4-1～図 1.4-4 に示す4地点とした。

表 1.4-1 調査地点と調査期日

調査地点	調査期日
①三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）	令和4年12月9日
②引地川河口部右岸（藤沢市）	令和4年11月28日
③金目川河口部左岸（平塚市）	令和4年12月3日
④酒匂川河口部右岸（小田原市）	令和4年12月14日

#### 1.4.2 調査期日及び回数

調査期日は、表 1.4-1 に示した。調査回数は、1回実施した。

#### 1.4.3 事前踏査等

##### (1) 事前準備

事前に調査地点の海岸管理者へ作業についての連絡及び必要な手続きを行った。また、調査地点の自治体へ廃棄物の処理方法等についての連絡を行った。

##### (2) 事前踏査

調査地点において事前踏査を行い、目視による確認で、漂着ごみが多く集積しているエリアを選定した。なお、継続して同じ場所で調査できるところを選定した。

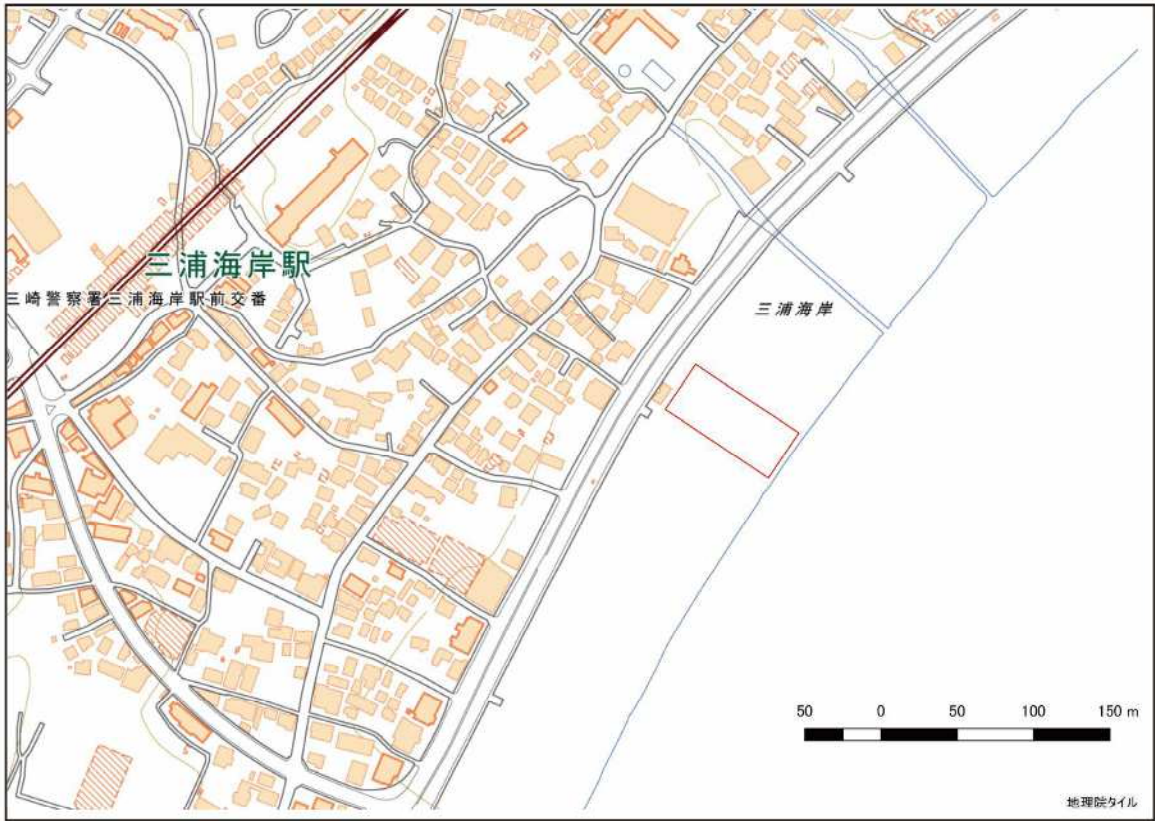


図 1.4-1 調査地点：三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）

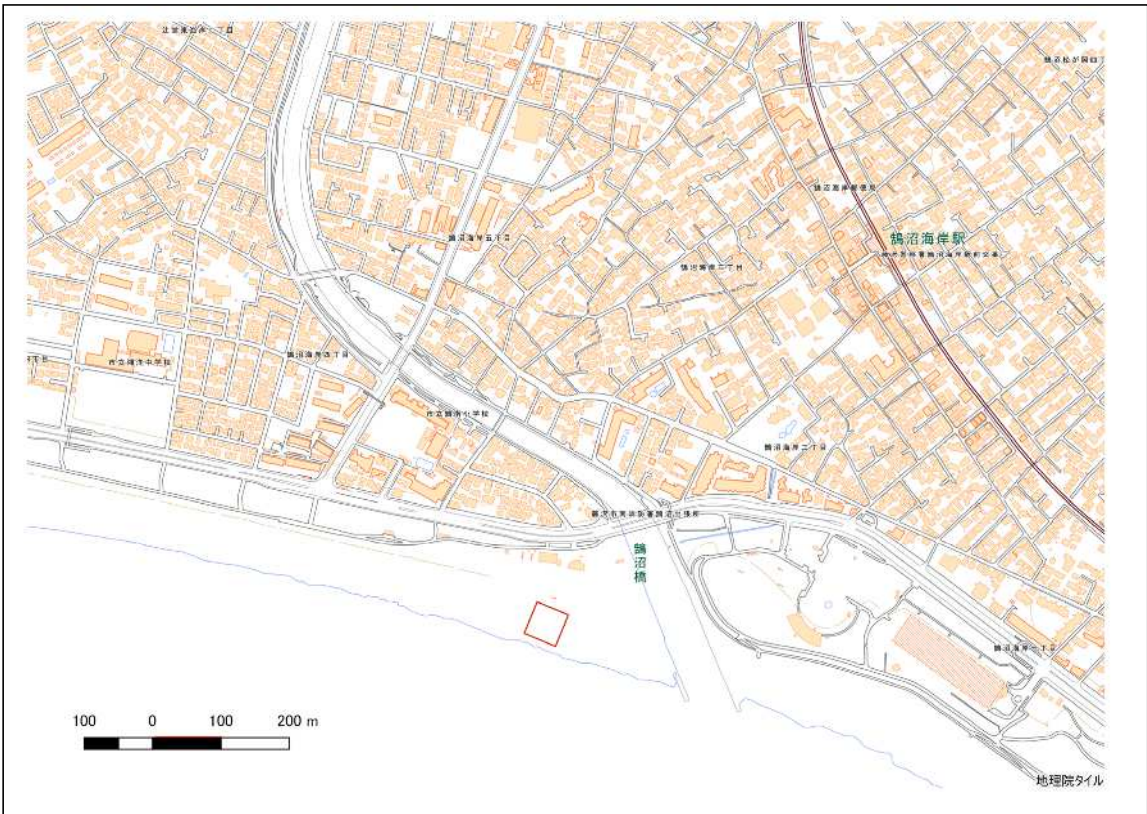


図 1.4-2 調査地点：引地川河口部右岸（藤沢市）



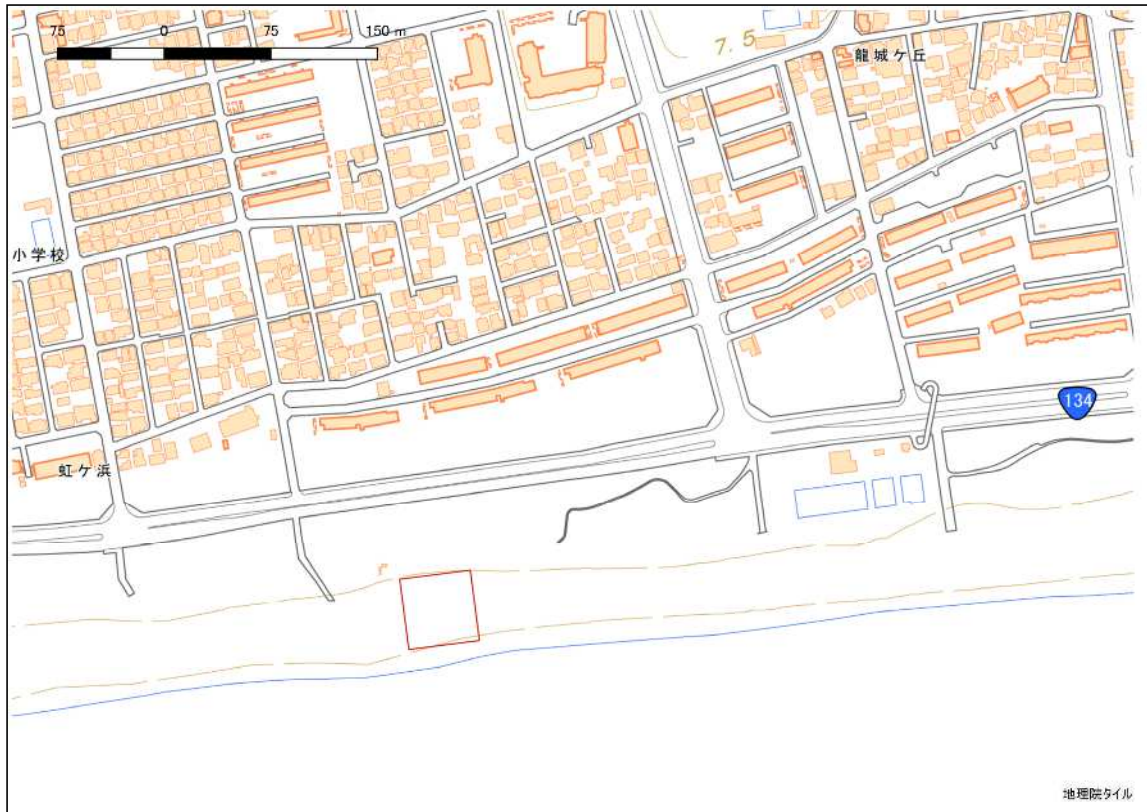


図 1.4-3 調査地点：金目川河口部左岸（平塚市）

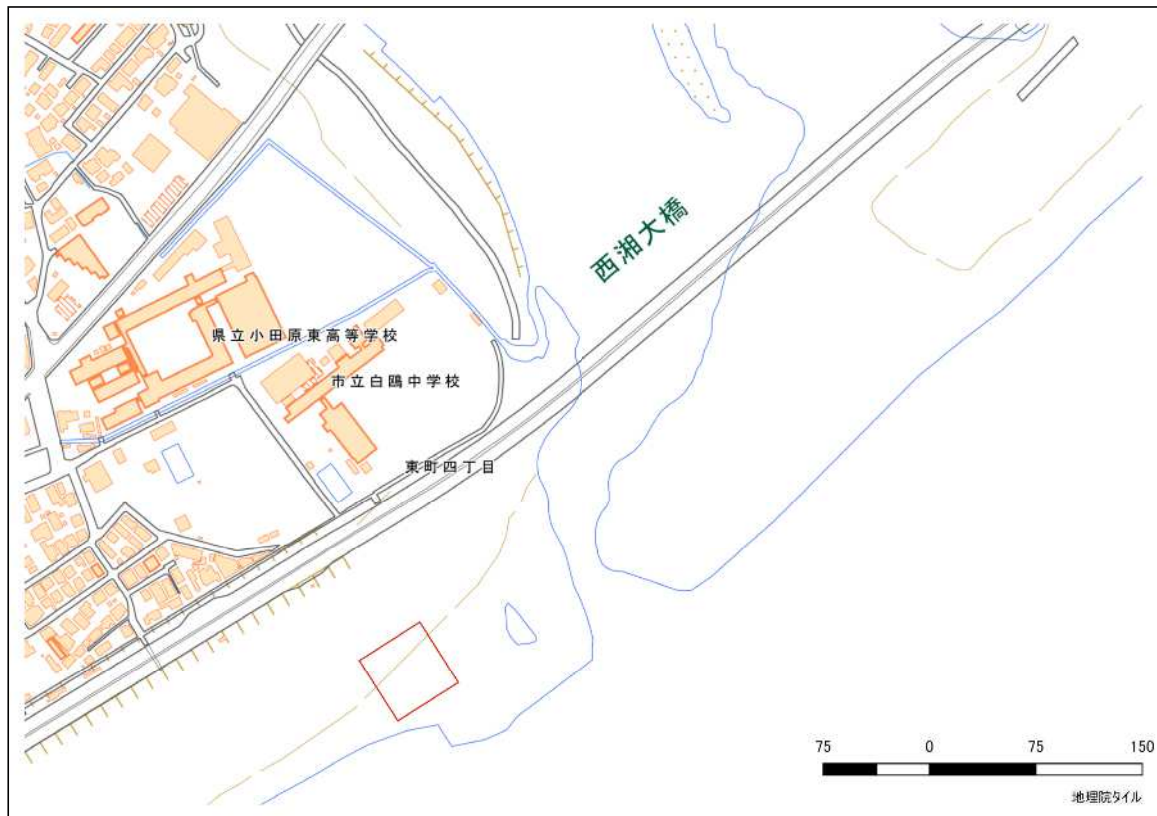


図 1.4-4 調査地点：酒匂川河口部右岸（小田原市）

## 1.4.4 漂着ごみの回収・分析等

### (1) 事前準備

表 1.4-2 に示す漂着ごみの回収に必要な用具及び調査に必要な機材等の準備を行った。

また、調査予定日の天候を事前に確認し、天候不良により調査を実施することができないと判断した場合は、調査を延期し、その旨及び延期日を発注者へ連絡した。

表 1.4-2 調査に必要な物

① 漂着ごみの分類表兼データシート
② 製造国の特定のデータシート
③ 筆記用具
④ ゴミを収集するための丈夫なゴミ袋
⑤ ゴミ分類後の計測機器 ・重量を測定するための計量秤 ・容量を測定するための袋または容器
⑥ メジャー（50mまで計測可能なもの）
⑦ 軍手
⑧ 金ばさみ
⑨ カメラ
⑩ 危険物（例：注射器） 収納容器
⑪ その他、必要と判断した物（寒さ対策等）

### (2) 漂着ごみの回収及び分析

#### ① 調査範囲

図 1.4-5 に示すとおり、汀線方向の幅を 50m として、調査時の海岸汀線から海岸の後背地（植生があるところ）までの間を対象とした。

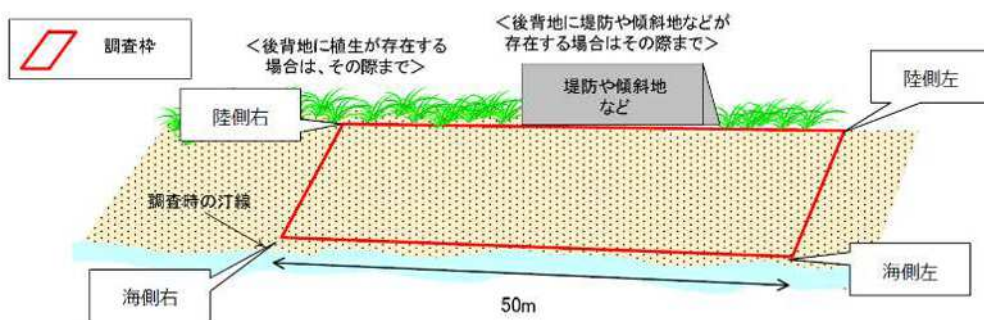


図 1.4-5 調査範囲

#### ② 調査対象の漂着ごみ

長さが 2.5cm 以上の漂着ごみを調査対象として回収した。

#### ③ 漂着ごみの回収及び分析

ガイドラインに基づき、調査範囲において回収した調査対象の漂着ごみを分類し、ガイドラインの

「漂着ごみ データシート①～②」に従って、個数、重量及び容積を計測した。

### (3) 発生源推定の分析

次のごみについては、記載されたバーコードやラベル等の表記が読み取れるものは、言語の特定を行い、ガイドラインの「製造国の特定のデータシート」に従って、別途個数を計測した。

表 1.4-3 調査品目

①ペットボトル
②ペットボトルのキャップ
③漁業用の浮子

#### 1.4.5 漂着ごみの処理

調査に伴い回収した漂着ごみは、分類及び計測終了後、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」をはじめとする関係法令及び各自治体の廃棄物処理計画に則り適正に処理を行った。

#### 1.4.6 調査結果報告書の作成

本委託業務に係る調査結果報告書（本報告書）を作成した。なお、調査に係る考察を取りまとめた調査結果報告書には、表 1.4-4 に示す事項を掲載した。

過年度（令和元年度～令和3年度：R1～R3）にも、同様な調査を実施したので、この結果との比較も行った。ただし、三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）は、令和2年度と令和3年度である。表記は、本年度調査、過年度調査（R1、R2、R3）とした。

なお、漂着ごみについては、通常は、重量は小数第1位、容量、個数は整数で表示するが、本年度の調査結果では、漂着ごみの量が少なく、個数があっても、重量0.0kg、容量0Lと表記されることが多くあった。したがって、重量は小数第2位、容量は小数第1位までで整理した。過年度調査結果についても、同様にした。

表 1.4-4 必要項目と掲載場所

必要項目	掲載場所
①事前踏査のとりまとめ結果	添付資料1
②漂着ごみ データシート①～②及び製造国の特定のデータシート	添付資料2
③漂着ごみ データシート①～②及び製造国の特定のデータシート作成の根拠となる野帳の写し	添付資料3
④調査範囲を示した地図	図 1.4：前出
⑤調査範囲の調査中及び調査前後の写真	2. 組成調査の調査結果
⑥回収された漂着ごみの品目ごとの写真	添付資料4
⑦人工物、漁具、自然物の分類別の組成	2. 組成調査の調査結果
⑧人工物の大分類別（ガイドライン準拠）の組成	2. 組成調査の調査結果
⑨プラスチックの容器包装等の組成	2. 組成調査の調査結果

## 2. 本調査の調査結果

### 2.1 三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）

#### 2.1.1 組成調査

##### (1) 現地の状況等

三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）での状況写真は、図 2.1-1 に示す。

本海岸での清掃は比較的ゆきとどいており、漂着ごみはほとんど見られなかった。主に波打ち際にプラスチックの破片が分布していた。その大きさから通常の清掃での回収の対象となっていないものと思われた。これらが、主な回収物である。調査範囲は 100m 程度で他の地点と比較すると広い。

本調査地点は、過年度調査（R1）は実施していない。過年度調査は R2 と R3 のみである。

また、過年度調査（R2）での調査地点の名称は、「三浦海岸公衆トイレ付近（三浦市）」である。



図 2.1-1 三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）での状況写真

##### (2) 3 分類別の組成

3 分類別の組成は、表 2.1-2、図 2.1-3 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 11.98kg、容量 51.4L、個数 1,156 個であった。3 分類別の組成は、重量、個数ともに人工物（漁具を除く）がそれぞれ 80.7%、92.0% と最も多かった。容量は、自然物が 51.3% と最も多かった。重量、容量、個数の割合が多かった人工物（漁具を除く）は、プラスチック、ガラス・陶器、金属であった。なお、灌木の個数は、環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R3）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 1.9 倍、容量で 1.7 倍、個数で 1.4 倍とやや多かった。3 分類別の組成は、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

過年度調査（R2）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 1.1 倍、容量で 0.9 倍、個数で 1.2 倍と同程度であった。3 分類別の組成は、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

##### (3) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.1-2、図 2.1-3 に示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量、個数では金属がそれぞれ 40.2%、45.4%、容量ではプラスチックが 36.9% と最も多かった。これらの項目は、他の重量、容量、個数でも多かった。これらは、プラスチックではボトルのキャップ、ふた、たばこ吸殻（フィルター）などが多くを占めており、ガラス・陶器では建築資材、金属ではくぎが多くを占めていた。

過年度調査（R3）での人工物は、本年度調査の重量で 1.9 倍、容量で 1.9 倍、個数で 1.5 倍とやや多かった。人工物の大分類別の組成は、プラスチック、ガラス・陶器、金属が多いことなど、重量、



容量、個数ともに比較的類似していた。

過年度調査（R2）での人工物は、本年度調査の重量で1.2倍、容量で1.4倍、個数で1.3倍とやや多かった。人工物の大分類別の組成は、プラスチック、ガラス・陶器、金属が多いことなど、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

#### **(4) プラスチックの容器包装等の組成**

プラスチックの容器包装等の組成を表 2.1-3、図 2.1-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ80.3%、55.9%、72.1%と多かった。重量、容量、個数の割合が多かった製品は、たばこ吸殻（フィルター）であった。

過年度調査（R3）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で2.1倍、容量で2.2倍、個数で1.8倍と多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、製品の割合が多いことなど、重量、容量、個数ともに類似していた。

過年度調査（R2）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で2.2倍、容量で1.8倍、個数で2.3倍と多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、製品の割合が多いことなど、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

表 2.1-1 (1) 3 分類別の組成 (本年度調査)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	9.67	24.4	1,064
漁具	0.04	0.6	9
自然物	2.27	26.4	83
合計	11.98	51.4	1,156

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

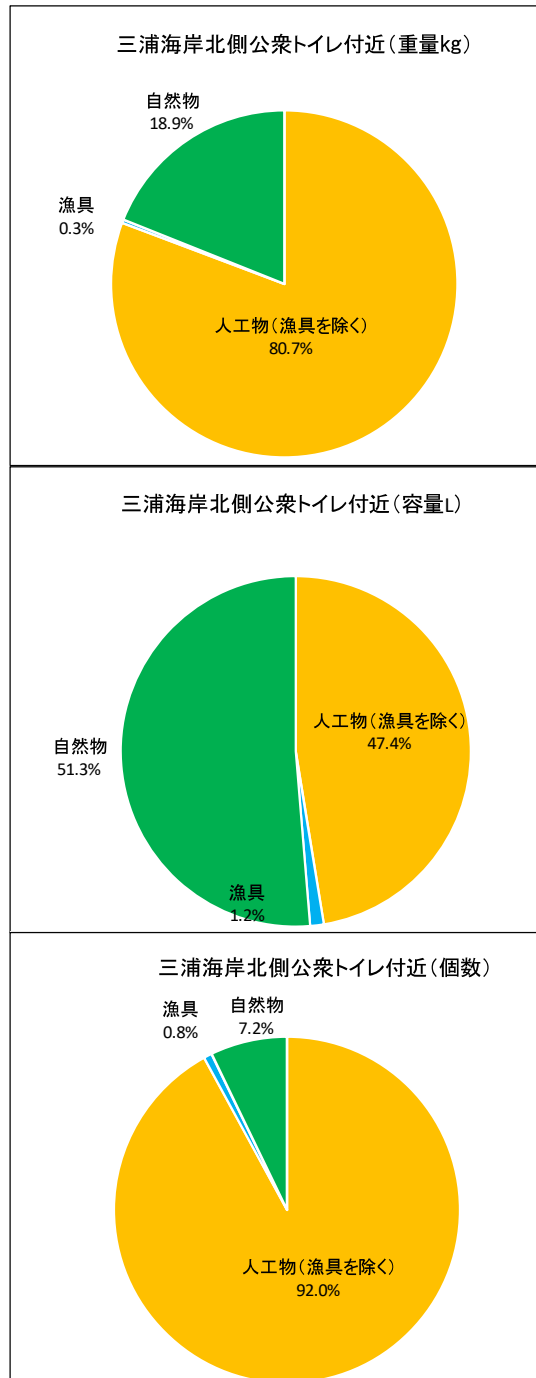


図 2.1-2 (1) 3 分類別の組成 (本年度調査)

表 2.1-2 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R3)、右側 : 過年度調査 (R2))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	18.67	46.1	1,577	人工物(漁具を除く)	11.59	28.9	1,301
漁具	0.08	0.7	26	漁具	0.46	5.2	55
自然物	3.99	39.6	0	自然物	1.06	10.0	0
合計	22.74	86.4	1,603	合計	13.11	44.1	1,356

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

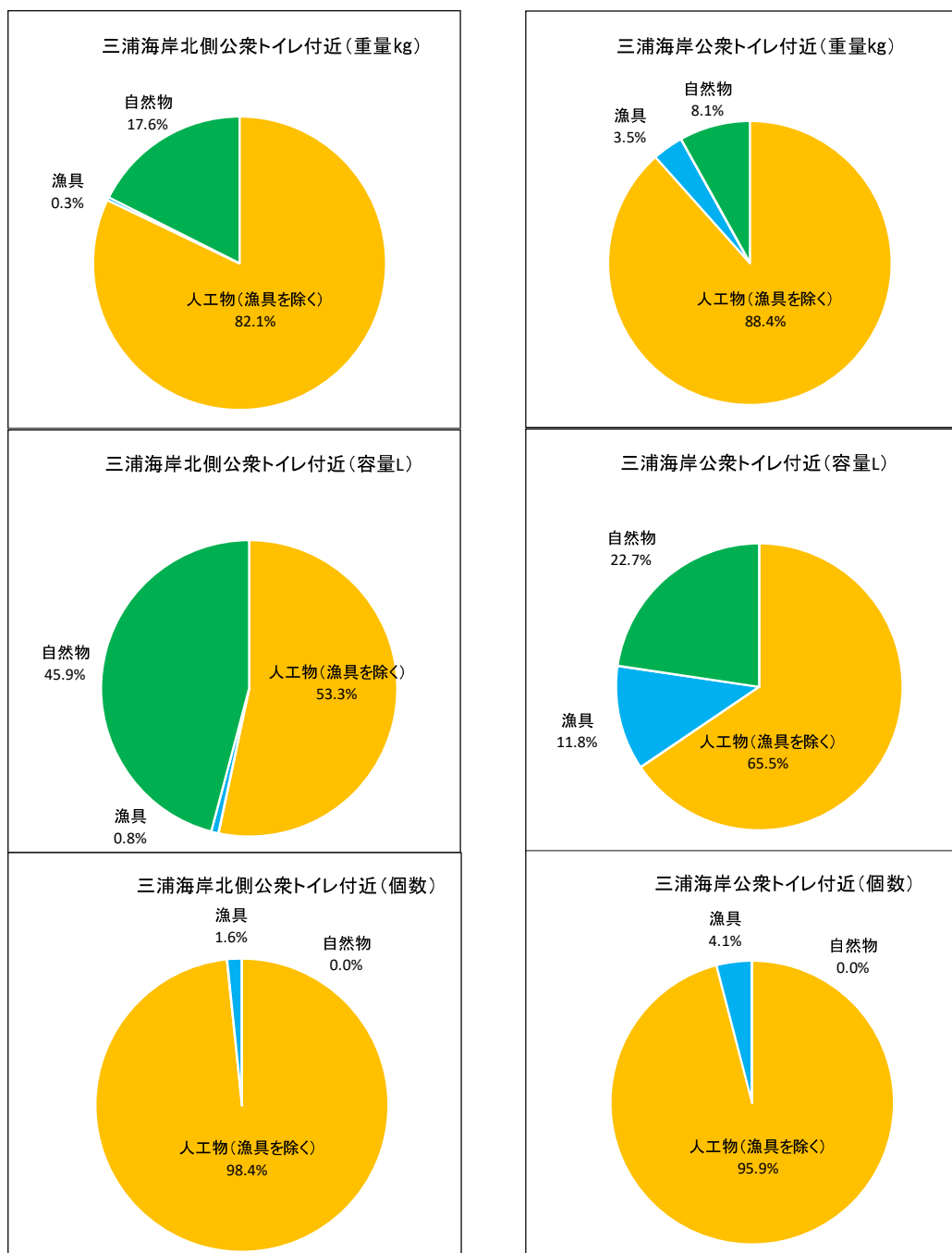


図 2.1-3 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R3)、右側 : 過年度調査 (R2))

表 2.1-3 (1) 人工物の大分類別の組成 (本年度調査)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.89	9.2	295
発泡スチロール	0.01	0.3	6
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	3.36	3.3	107
金属	3.90	4.3	487
紙・段ボール	0.03	0.3	13
ゴム	0.01	0.0	6
木・木材系	0.54	5.0	21
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.97	2.7	138
人工物合計	9.71	25.0	1,073

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

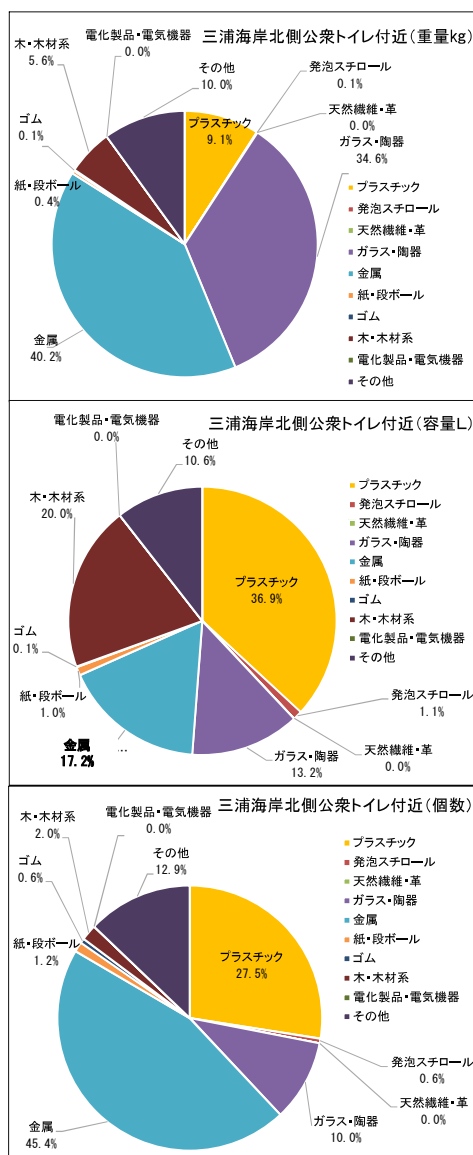


図 2.1-4 (1) 人工物の大分類別の組成 (本年度調査)

表 2.1-4 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R3)、右側：過年度調査 (R2))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.85	20.0	533
発泡スチロール	0.01	0.6	4
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	11.13	16.8	164
金属	4.38	6.2	692
紙・段ボール	0.01	0.1	3
ゴム	0.54	0.5	5
木・木材系	0.16	0.9	64
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.65	1.7	138
人工物合計	18.74	46.8	1,603

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.62	13.0	634
発泡スチロール	0.33	4.5	52
天然繊維・革	0.02	0.0	5
ガラス・陶器	5.20	4.8	68
金属	4.16	6.7	422
紙・段ボール	0.03	2.2	6
ゴム	0.03	0.1	8
木・木材系	0.12	0.8	36
電化製品・電気機器	0.02	0.0	1
その他	0.52	2.1	124
人工物合計	12.05	34.1	1,356

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

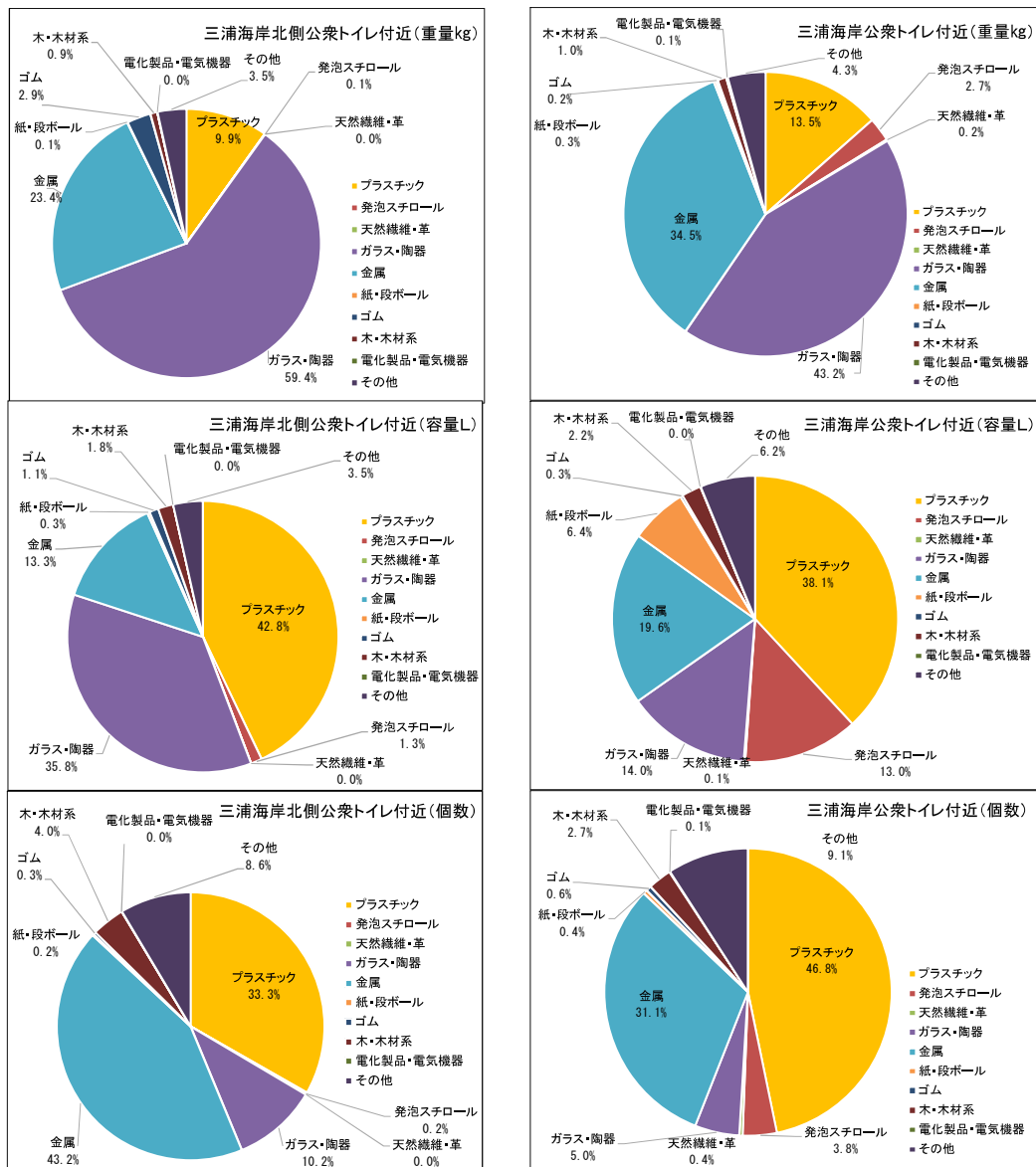


図 2.1-5 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R3)、右側：過年度調査 (R2))



表 2.1-5 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (本年度調査)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.14	3.6	75
製品	0.72	5.3	217
漁具	0.04	0.6	9
合計	0.89	9.5	301

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

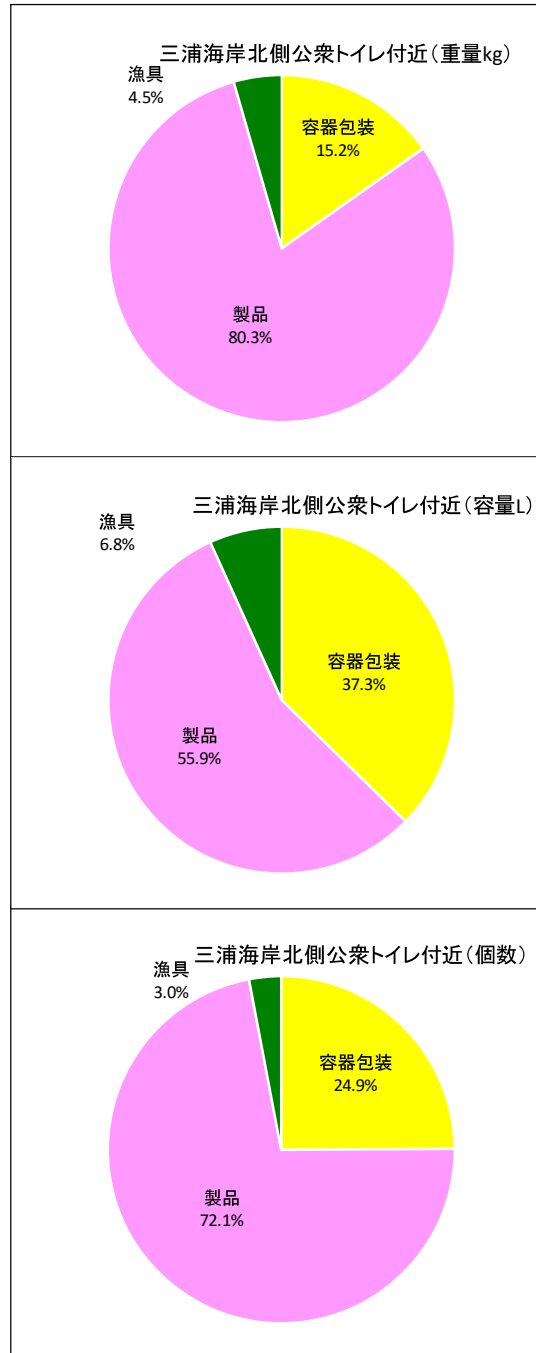


図 2.1-6 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (本年度調査)

表 2.1-6 (2) プラスチックの容器包装等の組成  
(左側：過年度調査 (R3)、右側：過年度調査 (R2))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.18	6.3	103	容器包装	0.36	3.3	281
製品	1.61	13.6	408	製品	1.15	8.7	351
漁具	0.08	0.7	26	漁具	0.44	5.5	54
合計	1.87	20.7	537	合計	1.95	17.5	686

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

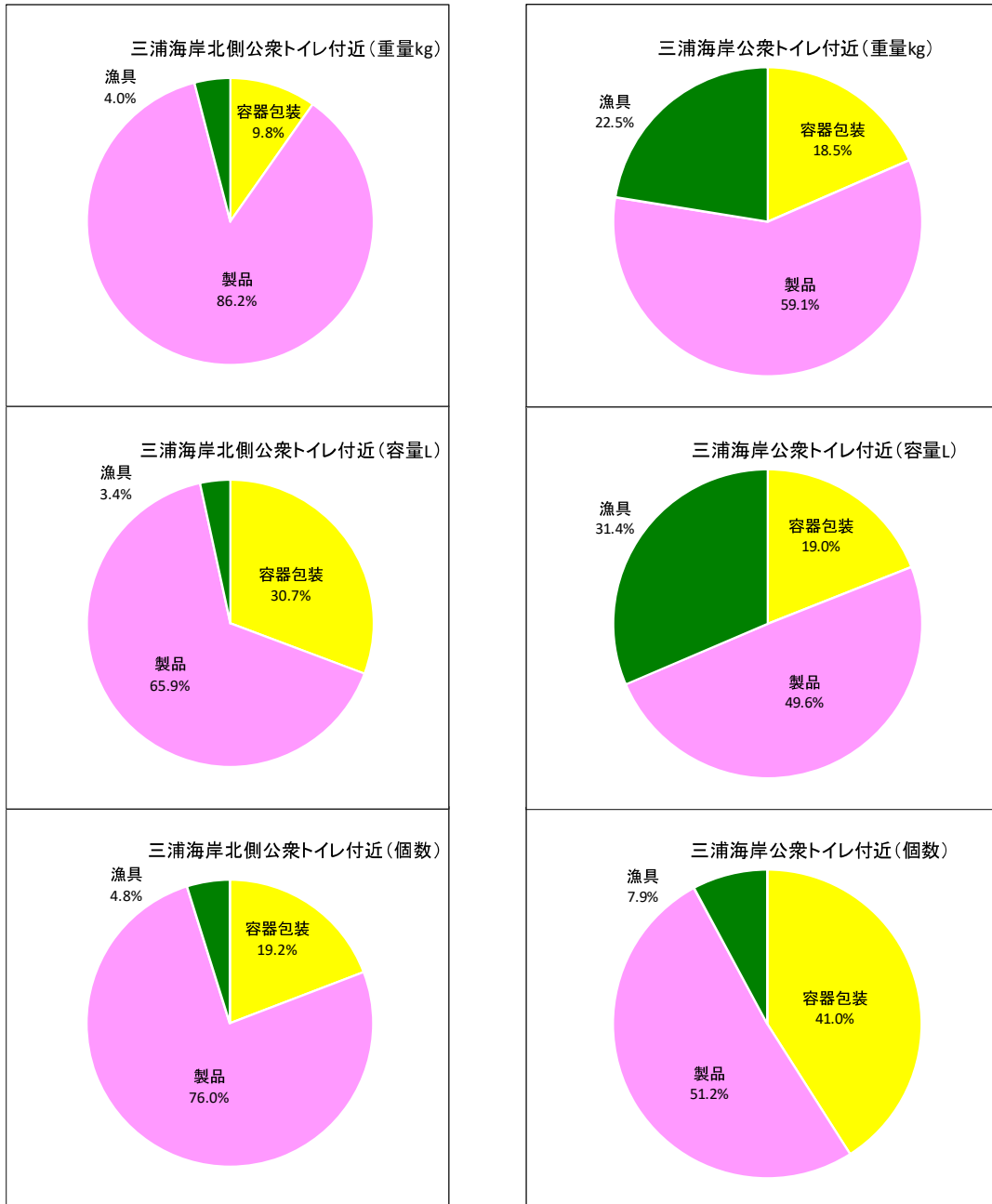


図 2.1-7 (2) プラスチックの容器包装等の組成  
(左側：過年度調査 (R3)、右側：過年度調査 (R2))

### 2.1.2 発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.1-7 に示す。

本年度調査では、ペットボトルのキャップは日本 17 個であった。

過年度調査 (R3) は、ペットボトルのキャップは日本 7 個、不明 22 個、漁業用の浮子は不明 3 個であった。過年度調査 (R2) は、1 個も回収できなかった。

表 2.1-7 製造国の特定結果

	ペットボトル	ペットボトルの キャップ	漁業用の浮子
日本	0	17	0
中国・台湾	0	0	0
韓国	0	0	0
不明	0	0	0
合計	0	17	0

## 2.2 引地川河口部右岸（藤沢市）

### 2.2.1 組成調査

#### (1) 現地の状況等

引地川河口部右岸（藤沢市）での状況写真は、図 2.2-1 に示す。

本海岸での清掃は比較的ゆきとどいており、漂着ごみはほとんど見られなかった。主に海岸奥側半分に破片状の灌木が分布していた。その大きさから通常の清掃での回収の対象となっていないものと思われた。その内側や下側に、主に小さなプラスチックが散在しており、これらが、今回の主な回収物である。

過年度調査（R1、R2、R3）でも、同様な状況であった。



図 2.2-1 引地川河口部右岸（藤沢市）での状況写真

#### (2) 3分類別の組成

3分類別の組成は、表 2.2-1、図 2.2-2 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 6.63kg、容量 181.0L、個数 79 個であった。3分類別の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 95.9%、66.3%、個数では人工物（漁具を除く）が 100.0% と最も多かった。重量、容量の多かった自然物は灌木で、個数の割合が多かった人工物（漁具を除く）はプラスチックであった。なお、灌木の個数は、環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R3）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 0.2 倍、容量で 0.2 倍、個数で 1.2 倍と、重量、容量で少なかった。3分類別の組成は、重量を除いて、容量、個数でやや類似していた。

過年度調査（R2）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 0.5 倍、容量で 0.1 倍、個数で 1.2 倍と、重量、容量で少なかった。3分類別の組成は、容量を除いて、重量、個数でやや類似していた。

過年度調査（R1）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 3.2 倍、容量で 1.5 倍、個数で 9.1 倍と多かった。3分類別の組成は、容量を除いて、重量、個数でやや類似していた。

過年度調査（R1）での回収量は、他の調査年度と比べて多かった。

#### (3) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.2-2、図 2.2-3 に示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量ではガラス・陶器が 55.9%、容量では木材が 98.3%、個数ではプラスチックが 82.3% と最も多かった。

過年度調査（R3）での人工物は、本年度調査の重量で 2.9 倍、容量で 0.0 倍、個数で 1.2 倍とバラついていた。人工物の大分類別の組成は、個数でプラスチックが多いことが類似しただけであった。

過年度調査（R2）での人工物は、本年度調査の重量で1.6倍、容量で0.0倍、個数で1.2倍とバラついた。人工物の大分類別の組成は、個数でプラスチックが多いことが類似しただけであった。

過年度調査（R1）での人工物は、本年度調査の重量で3.3倍、容量で0.1倍、個数で9.1倍とバラついた。人工物の大分類別の組成は、個数でプラスチックが多いことが類似しただけであった。

また、たばこ吸殻（フィルター）は、過年度調査では459個（R1：プラスチックの67%）、27個（R2：プラスチックの28%）、46個（R3：プラスチックの61%）で、本年度調査でも49個（プラスチックの63%）もみられた。

#### **(4) プラスチックの容器包装等の組成**

プラスチックの容器包装等の組成は、表 2.2-3、図 2.2-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ94.1%、95.7%、71.8%と最も多かった。重量、容量、個数の割合が多かった製品は、たばこ吸殻（フィルター）であった。

過年度調査（R3）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で4.5倍、容量で2.6倍、個数で1.0倍と重量、容量で多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、容器包装、漁具の割合が多少異なるが、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

過年度調査（R2）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で3.6倍、容量で1.1倍、個数で1.0倍と重量で多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、容器包装、漁具の割合が多少異なるが、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

過年度調査（R1）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で6.7倍、容量で3.7倍、個数で8.9倍と多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、個数の容器包装の割合が多少異なるが、重量、容量ともに類似していた。



表 2.2-1 (1) 3 分類別の組成 (左側 : 本年度調査、右側 : 過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.27	61.0	79	人工物(漁具を除く)	0.77	3.0	87
漁具	0.00	0.0	0	漁具	0.01	0.1	8
自然物	6.36	120.0	0	自然物	0.46	41.5	1
合計	6.63	181.0	79	合計	1.24	44.5	96

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

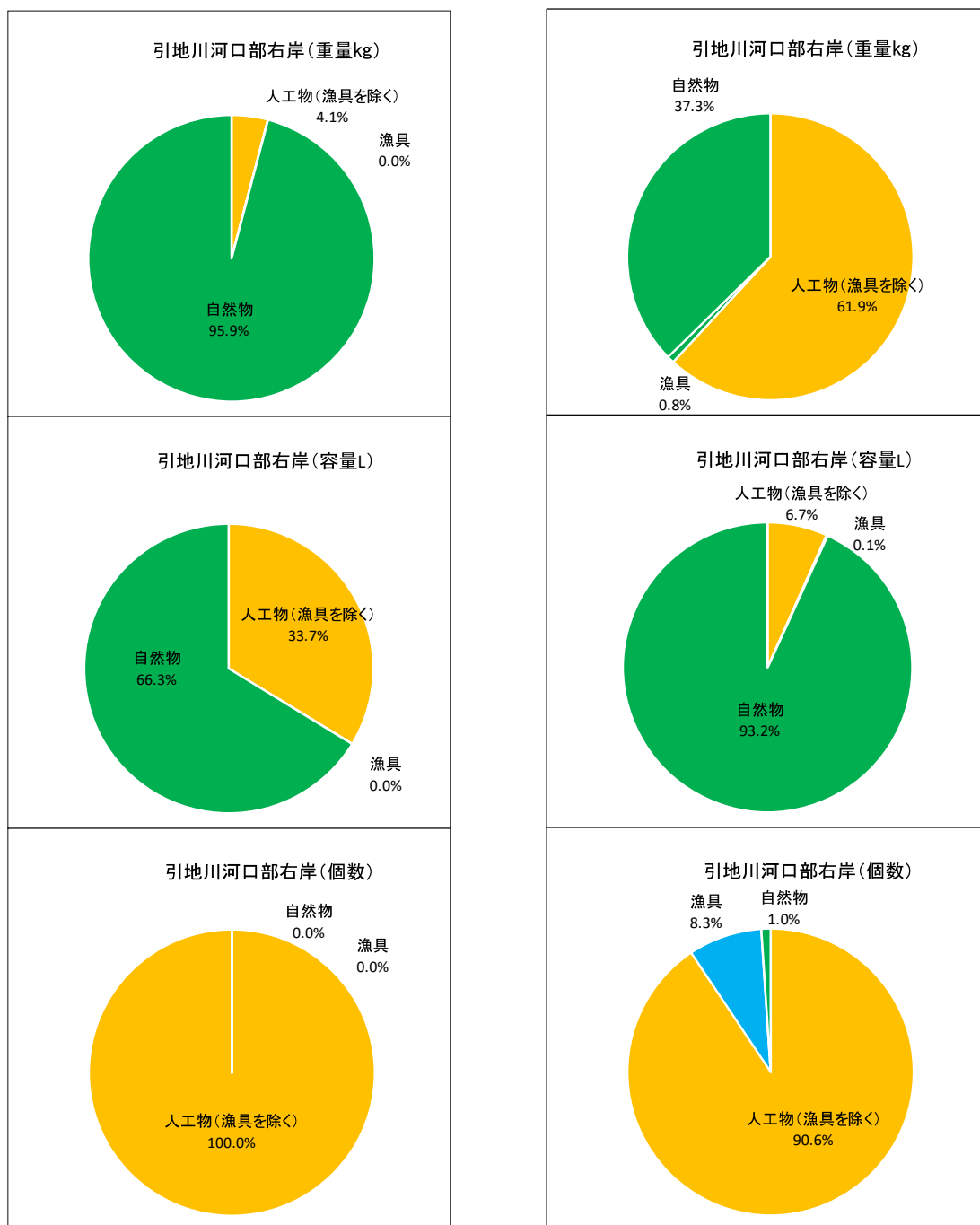


図 2.2-2 (1) 3 分類別の組成 (左側 : 本年度調査、右側 : 過年度調査 (R3))

表 2.2-1 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R2)、右側 : 過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.41	1.6	90	人工物(漁具を除く)	0.88	4.0	710
漁具	0.01	0.0	6	漁具	0.01	0.0	6
自然物	3.00	25.0	0	自然物	20.33	273.0	0
合計	3.42	26.6	96	合計	21.22	277.0	716

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

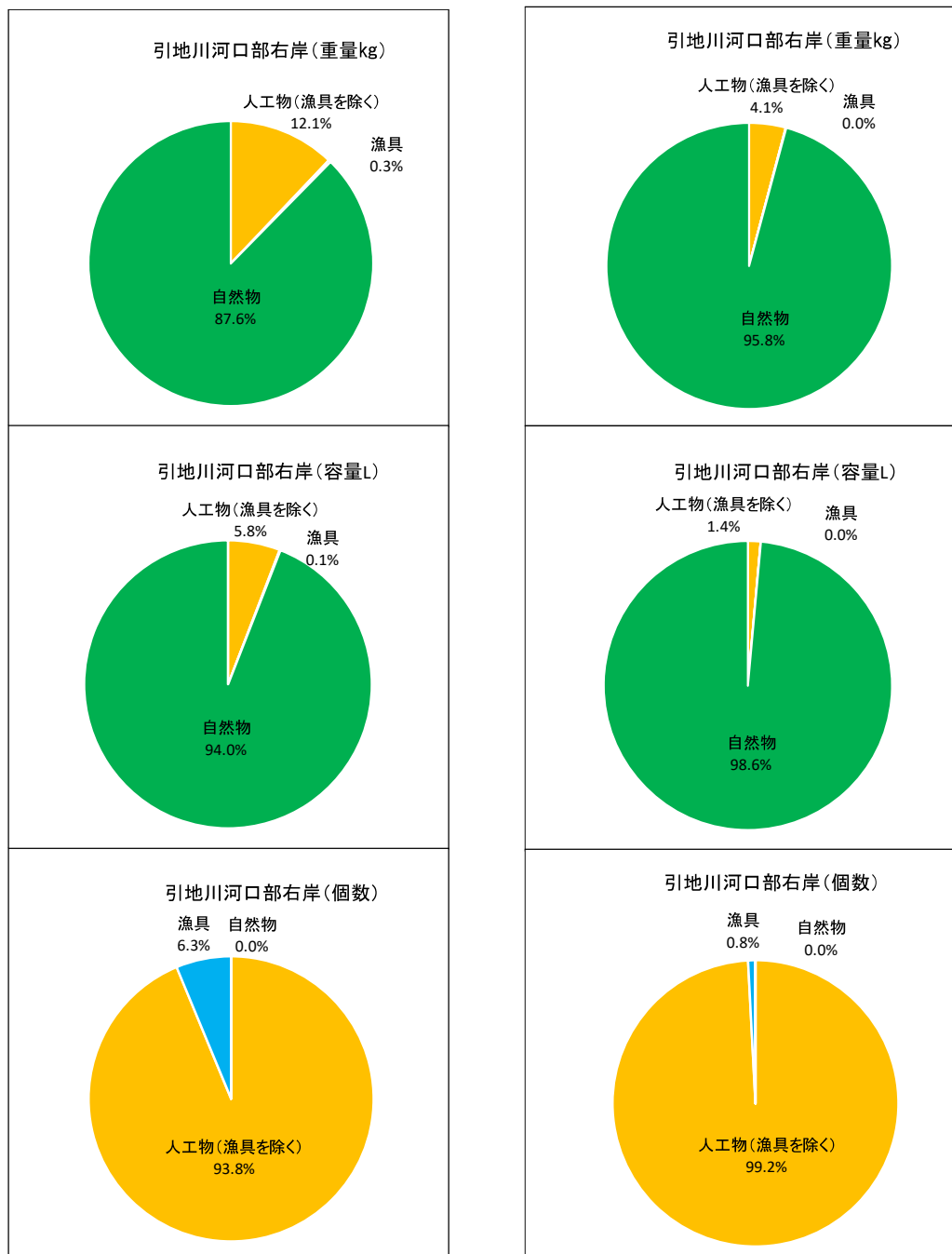


図 2.2-2 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R2)、右側 : 過年度調査 (R1))

表 2.2-2 (1) 人工物の大分類別の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.06	0.6	65
発泡スチロール	0.01	0.2	13
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.15	0.2	0
金属	0.00	0.0	0
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	0.05	60.0	1
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.27	61.0	79

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.31	2.1	76
発泡スチロール	0.00	0.0	4
天然繊維・革	0.01	0.1	3
ガラス・陶器	0.11	0.1	2
金属	0.17	0.3	5
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	0.10	0.3	2
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.07	0.1	3
人工物合計	0.78	3.0	95

※ 1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※ 2 図も同様である。

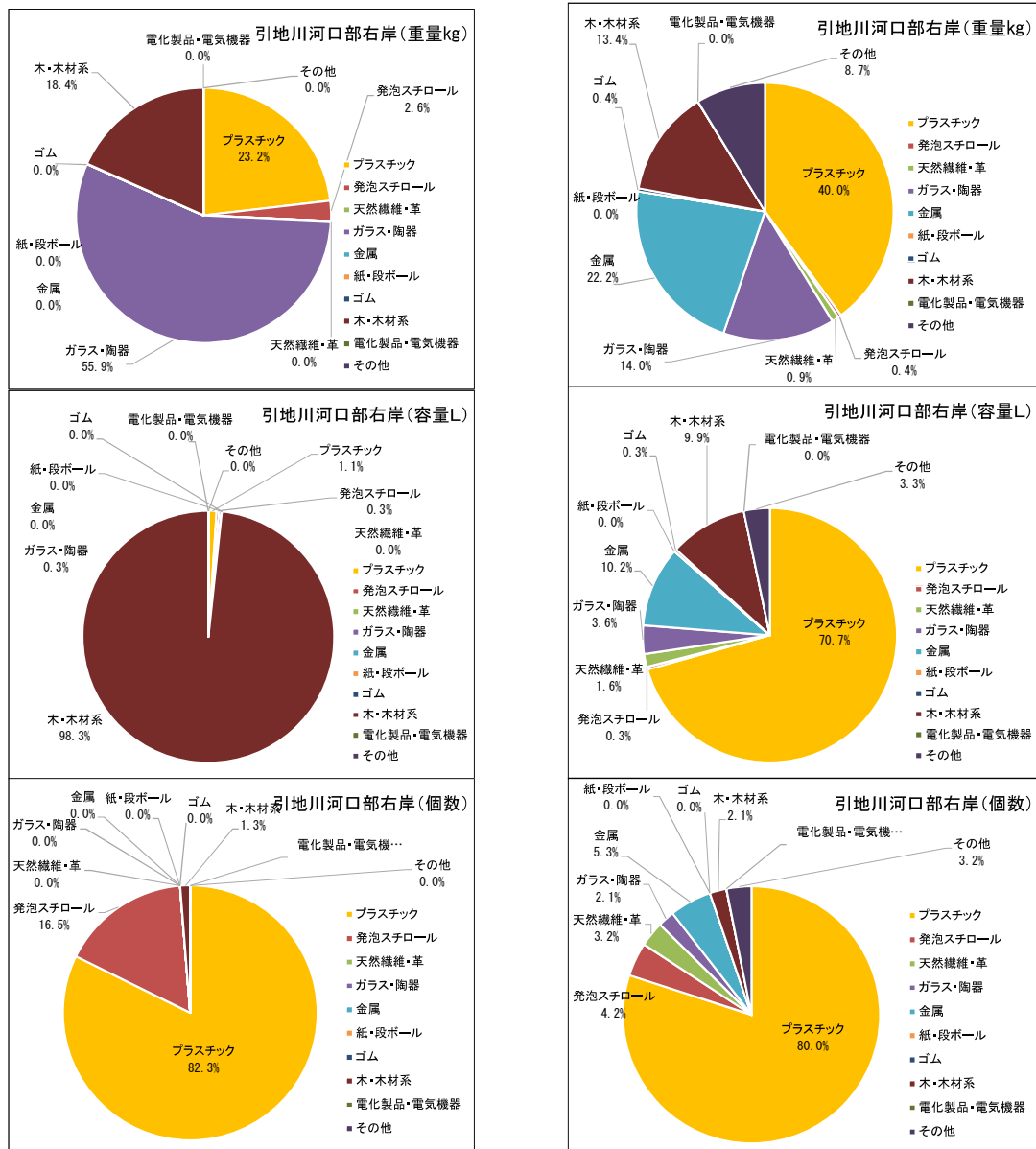


図 2.2-3 (1) 人工物の大分類別の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

表 2.2-2 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.25	0.9	79
発泡スチロール	0.00	0.0	0
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.04	0.1	0
金属	0.01	0.0	1
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.01	0.0	1
木・木材系	0.09	0.5	4
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.02	0.1	11
人工物合計	0.42	1.6	96

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.45	2.7	681
発泡スチロール	0.01	0.4	14
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.01	0.1	4
金属	0.00	0.0	1
紙・段ボール	0.00	0.0	1
ゴム	0.00	0.0	1
木・木材系	0.41	0.8	14
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.89	4.0	716

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

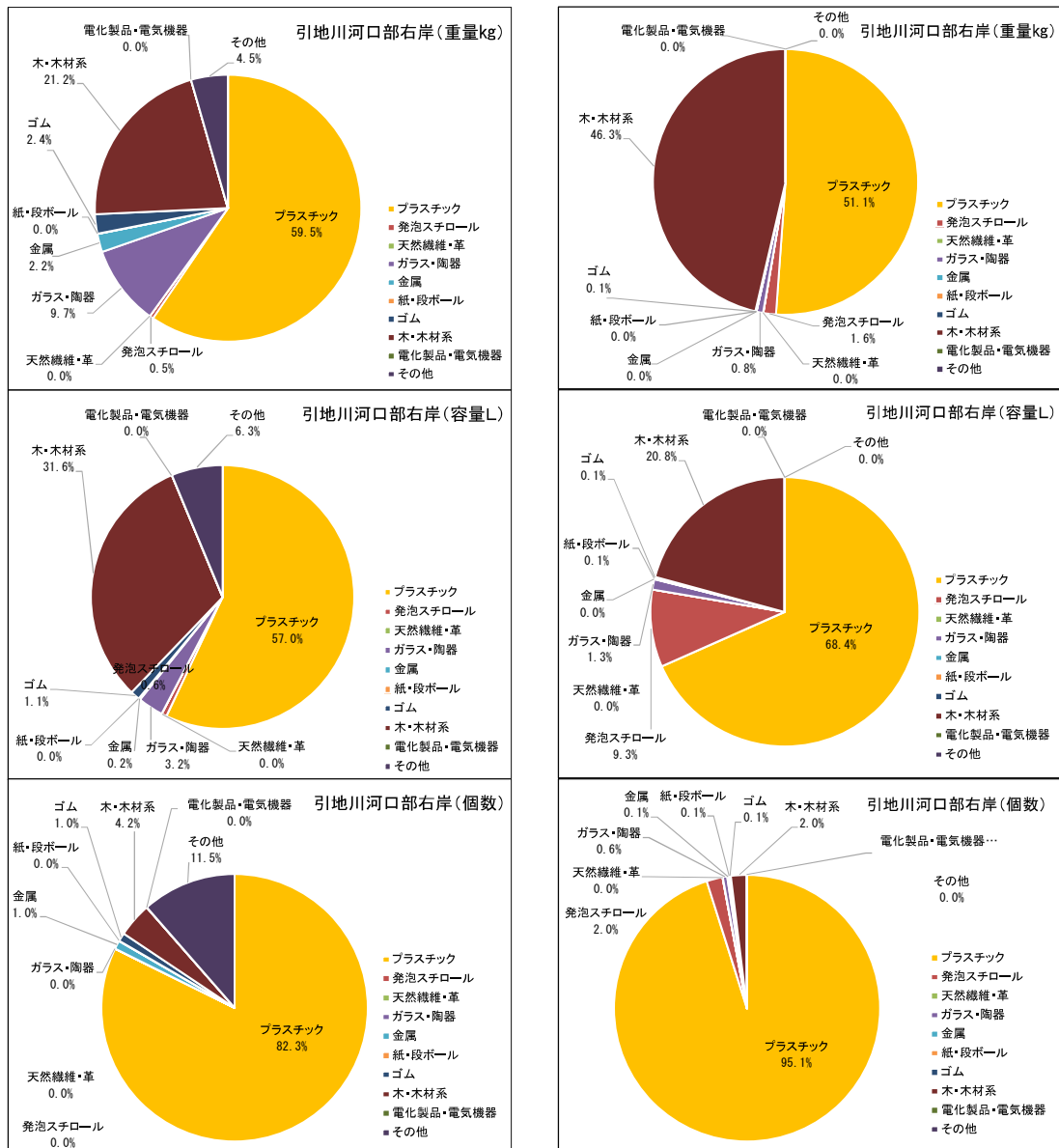


図 2.2-3 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

表 2.2-3 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.00	0.0	22
製品	0.07	0.8	56
漁具	0.00	0.0	0
合計	0.07	0.8	78

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.03	0.2	17
製品	0.27	1.9	55
漁具	0.01	0.1	8
合計	0.31	2.2	80

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

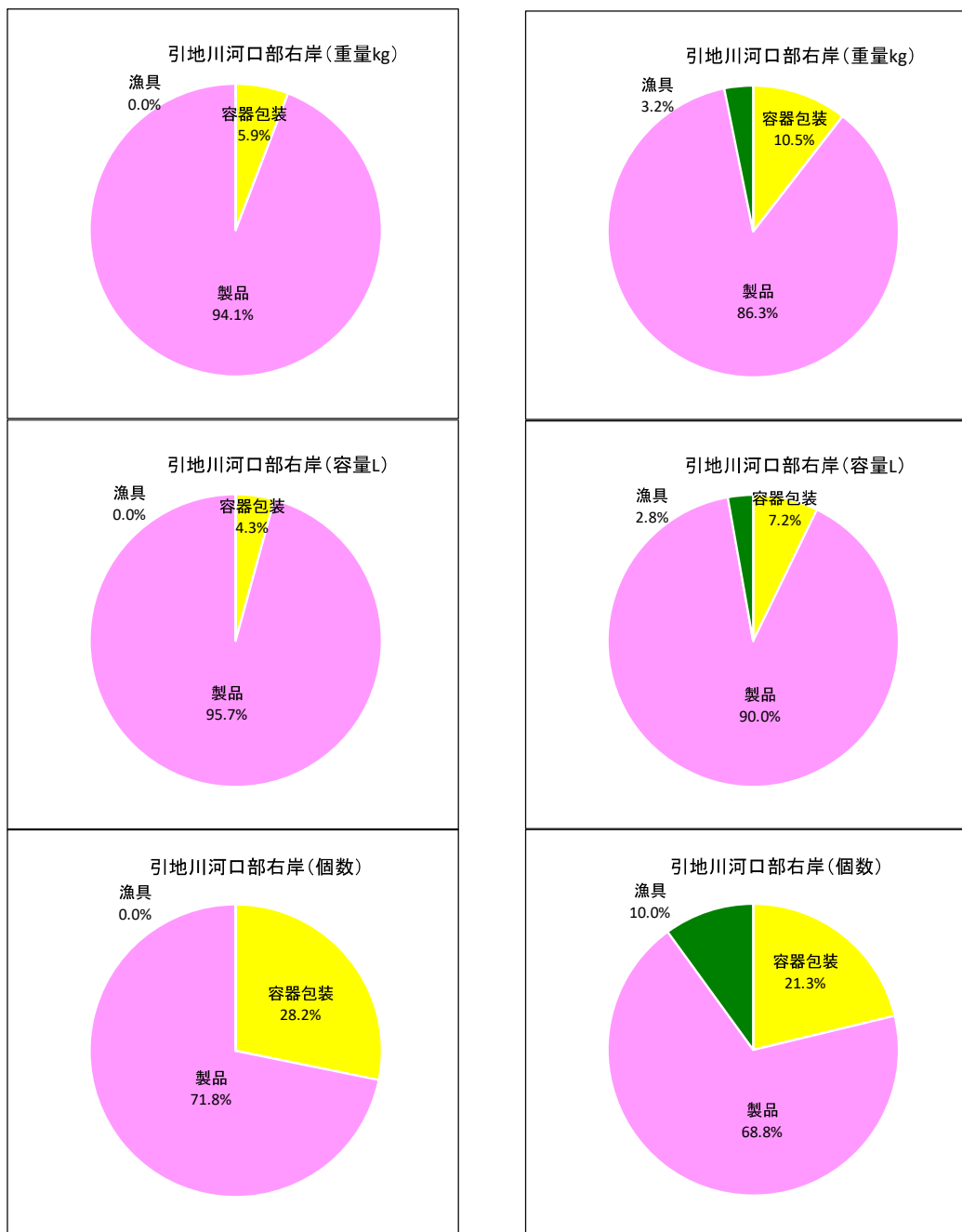


図 2.2-4 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))



表 2.2-3 (2) プラスチックの容器包装等の組成

(左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.04	0.3	18	容器包装	0.01	0.2	32
製品	0.20	0.6	55	製品	0.46	2.9	660
漁具	0.01	0.0	6	漁具	0.00	0.0	3
合計	0.25	0.9	79	合計	0.47	3.1	695

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

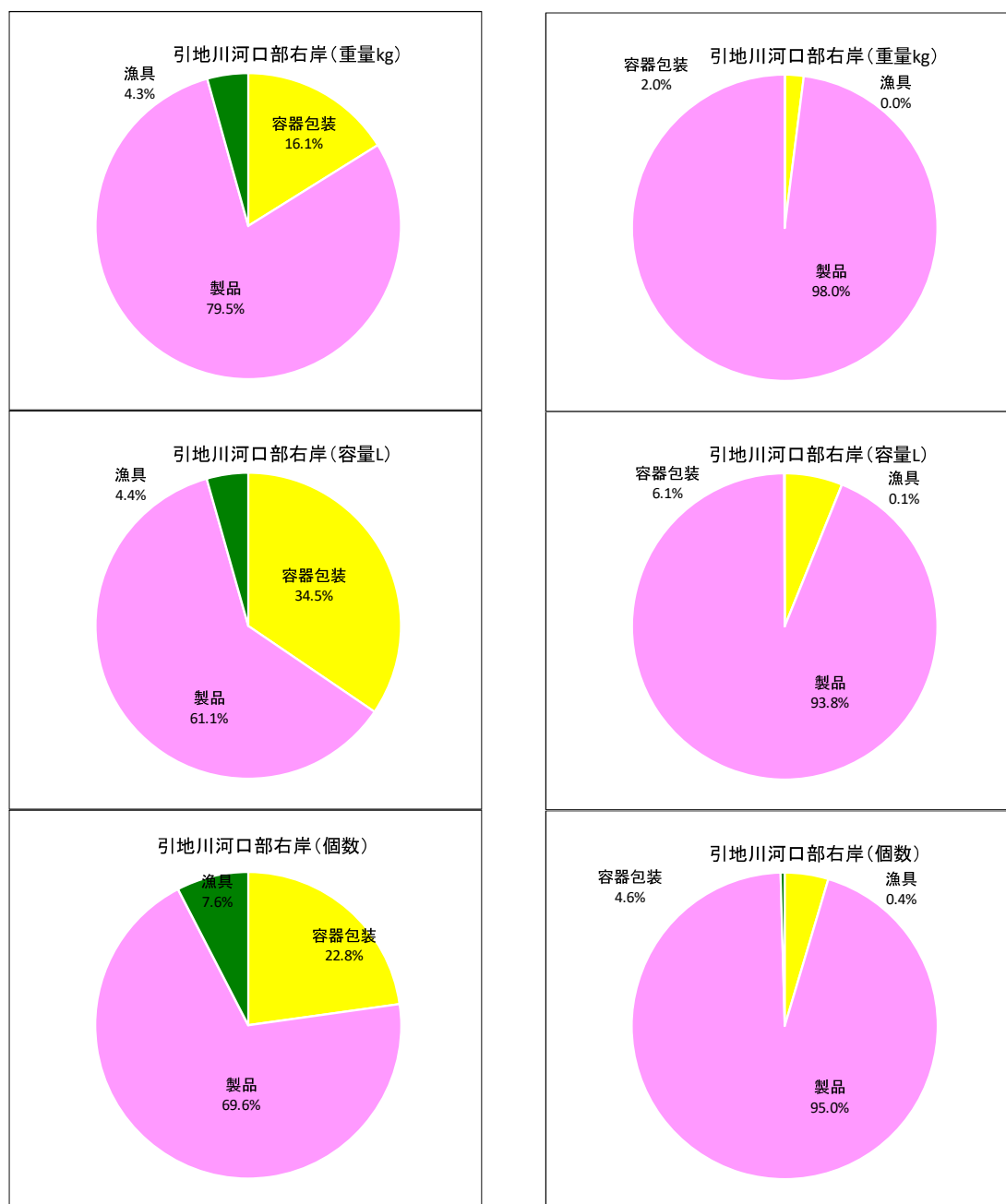


図 2.2-4 (2) プラスチックの容器包装等の組成

(左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

### 2.2.2発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.2-4 に示す。

本年度調査では、日本のペットボトルのキャップ 1 個のみであった。

過年度調査（R3）では、日本のペットボトルのキャップ 4 個、韓国 1 個、不明 1 個であった。過年度調査（R2）では、日本のペットボトルのキャップ 2 個のみ、過年度調査（R1）では 1 個も回収できなかった。

表 2.2-4 製造国の特定結果

	ペットボトル	ペットボトルの キャップ	漁業用の浮子
日本	0	1	0
中国・台湾	0	0	0
韓国	0	0	0
不明	0	0	0
合計	0	1	0

### 2.2.3補完調査

組成調査の50m枠では、漂着物が少なかったために、補完調査を実施した。組成調査実施日に、調査枠の東側150mについて、かながわ海岸美化財団が清掃活動を実施したので、そこで回収したごみをサンプルとして受取・分析したものである。

#### (1) 3分類別の組成

3分類別の組成は、表 2.2-5、図 2.2-5 に示す。

補完調査で回収された漂着ごみは、重量16.69kg、容量247.3L、個数376個であった。3分類別の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ95.0%、97.0%、個数では人工物（漁具を除く）が99.5%と最も多かった。重量、容量の多かった自然物は灌木で、個数の割合が多かった人工物（漁具を除く）はプラスチックであった。なお、灌木の個数は、環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

#### (2) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.2-6、図 2.2-6 に示す。

補完調査での人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともに、プラスチックがそれぞれ46.9%、63.8%、92.0%と最も多かった。プラスチックで多かったものは、食品の容器包装、食品容器（発泡スチロール）、たばこ吸殻（フィルター）などであった。

#### (3) プラスチックの容器包装等の組成

プラスチックの容器包装等の組成は、表 2.2-7、図 2.2-7 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ65.6%、49.2%、85.4%と最も多かった。重量、容量、個数の割合が多かった製品は、たばこ吸殻（フィルター）であった。

#### (4) 発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.2-8 に示す。

補完調査では、日本のペットボトル1個、日本のペットボトルのキャップ4個、同国不明1個であった。

#### (5) 本体調査と補完調査の比較

本体調査結果と補完調査結果とは、次の点で類似していた。

- ・3分類別の組成では、重量、容量では自然物が多く、個数では人工物（漁具を除く）が多いこと。
- ・人工物の大分類別の組成では、重量、容量、個数ともに、プラスチックが多くみられたこと。
- ・プラスチックの容器包装等の組成では、重量、容量、個数ともに、製品が多くみられたこと。
- ・プラスチックの主な品目は、たばこ吸殻（フィルター）であったこと。
- ・特定できたペットボトル等の製造国では、ほとんどが日本製であったこと。

表 2.2-5 3分類別の組成

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.79	7.2	374
漁具	0.05	0.2	2
自然物	15.86	240.0	0
合計	16.69	247.3	376

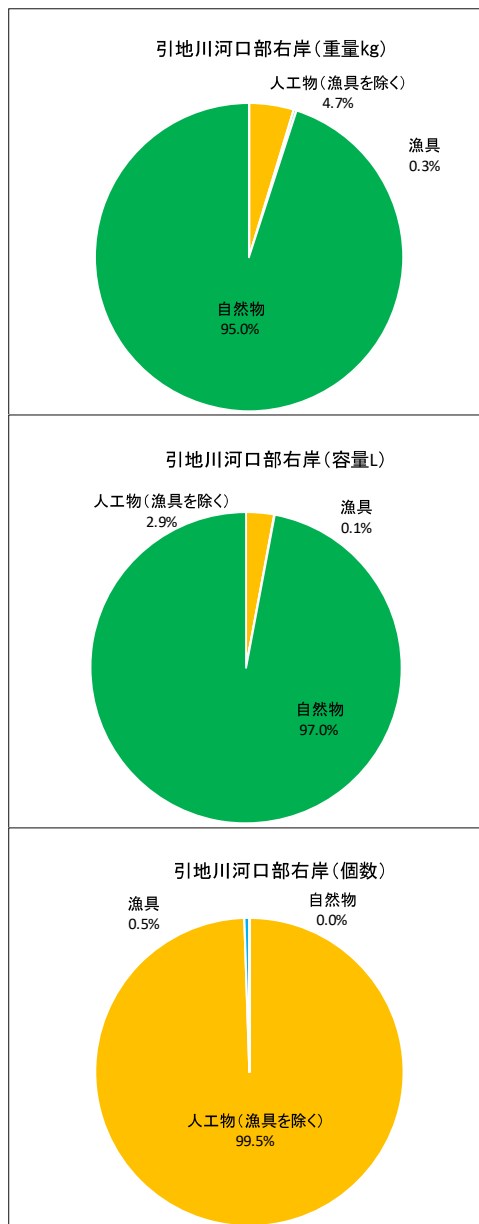


図 2.2-5 3分類別の組成

表 2.2-6 人工物の大分類別の組成

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.39	4.7	346
発泡スチロール	0.02	1.0	16
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.15	0.1	0
金属	0.01	0.0	2
紙・段ボール	0.01	0.4	2
ゴム	0.00	0.0	3
木・木材系	0.25	1.2	7
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.83	7.3	376

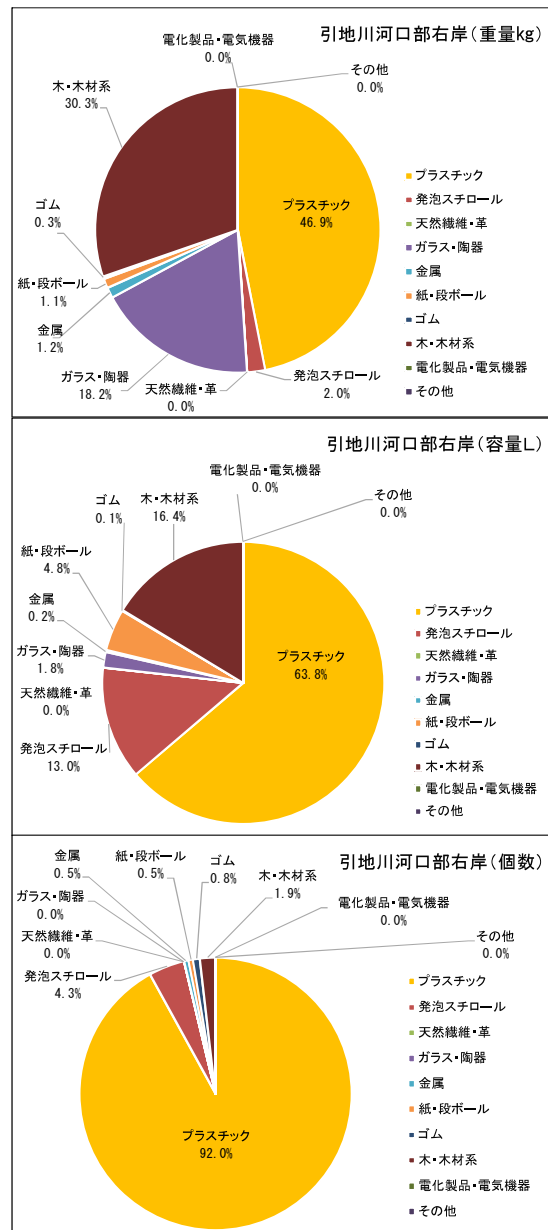


図 2.2-6 人工物の大分類別の組成

表 2.2-7 プラスチックの容器包装等の組成

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.09	2.7	51
製品	0.27	2.8	309
漁具	0.05	0.2	2
合計	0.41	5.6	362

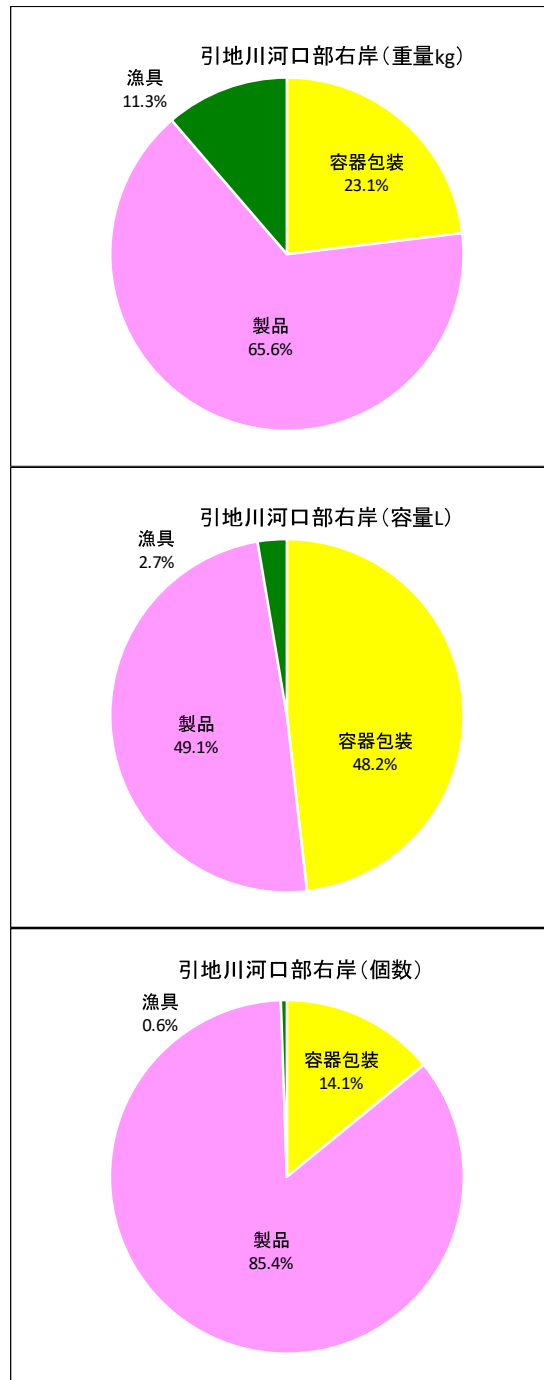


図 2.2-7 プラスチックの容器包装等の組成



表 2.2-8 製造国の特定結果

	ペットボトル	ペットボトルの キャップ	漁業用の浮子
日本	1	4	0
中国・台湾	0	0	0
韓国	0	0	0
不明	0	1	0
合計	0	0	0

## 2.3 金目川河口部左岸（平塚市）

### 2.3.1 組成調査

#### (1) 現地の状況等

金目川河口部左岸（平塚市）での状況写真は、図 2.3-1 に示す。

本海岸には、ビーチバレーのコートがあり、清掃もゆきとどいていた。それから 1 km 程度離れた場所に調査地点がある。大きな漂着ごみはほとんど見られなかったが、海岸の奥側に灌木が漂着していた。その大きさから通常の清掃の回収の対象となっていないものと思われた。その中側や下側に、主に小さなプラスチックが散在しており、これらが、主な人工物である。

過年度調査（R3、R2、R1）でも同様な状況であった。



図 2.3-1 金目川河口部左岸（平塚市）での状況写真

#### (2) 3分類別の組成

3分類別の組成は、表 2.3-1、図 2.3-2 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 31.88kg、容量 408.7L、個数 363 個であった。3分類別の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 91.6%、94.2%、個数では人工物（漁具を除く）が 97.2% と最も多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は灌木で、個数の多かった人工物（漁具を除く）はプラスチックであった。なお、灌木の個数は環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R3）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 3.2 倍、容量で 5.2 倍、個数で 1.1 倍と重量、容量で多かった。3分類別の組成は、重量、容量、個数ともに類似していた。

過年度調査（R2）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 0.2 倍、容量で 0.2 倍、個数で 0.1 倍と非常に少なかった。3分類別の組成は、個数を除いて、重量、容量ともに類似していた。

過年度調査（R1）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 2.8 倍、容量で 3.2 倍、個数で 0.6 倍とやや多かった。3分類別の組成は、個数を除いて、重量、容量ともに類似していた。

過年度調査（R2）で回収された漂着ごみは、他の調査回と比較して少なかった。

#### (3) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.3-2、図 2.3-3 に示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量では木・木材系が 59.0%、容量、個数ではプラスチックがそれぞれ 34.0%、60.7% と最も多かった。

過年度調査（R3）での人工物は、本年度調査の重量で 1.0 倍、容量で 1.8 倍、個数で 1.1 倍と容量でやや多かった。人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにあまり類似していなかった。

過年度調査（R2）での人工物は、本年度調査の重量で0.1倍、容量で0.1倍、個数で0.1倍と非常に少なかった。人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにあまり類似していなかった。

過年度調査（R1）での人工物は、本年度調査の重量で0.6倍、容量で0.6倍、個数で0.4倍と重量、容量、個数でやや少なかった。人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにあまり類似していなかった。

#### **(4) プラスチックの容器包装等の組成**

プラスチックの容器包装等の組成を表 2.3-3、図 2.3-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ81.0%、71.8%、52.6%と最も多かった。重量、容量、個数の割合が多かった製品は、シートや袋の破片、ウレタンなどであった。

過年度調査（R3）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で2.2倍、容量で3.6倍、個数で1.2倍と多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、製品の割合が多いことなど、重量、容量、個数で類似していた。

過年度調査（R2）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で0.1倍、容量で0.1倍、個数で0.0倍と非常に少なかった。プラスチックの容器包装等の組成は、容器包装の割合が多いことなど、個数では類似していたが、重量、容量では類似していなかった。

過年度調査（R1）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で1.1倍、容量で0.9倍、個数で0.4倍と個数では少なかった。プラスチックの容器包装等の組成は、容器包装の割合が異なるなど、容量では類似していないが、重量、個数ではやや類似していた。

表 2.3-1 (1) 3分類別の組成 (左側: 本年度調査、右側: 過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.68	23.6	353
漁具	0.00	0.0	6
自然物	29.20	385.0	4
合計	31.88	408.7	363

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.57	41.9	382
漁具	0.05	0.1	8
自然物	99.56	2092.7	1
合計	102.18	2134.7	391

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。  
 ※2 図も同様である。

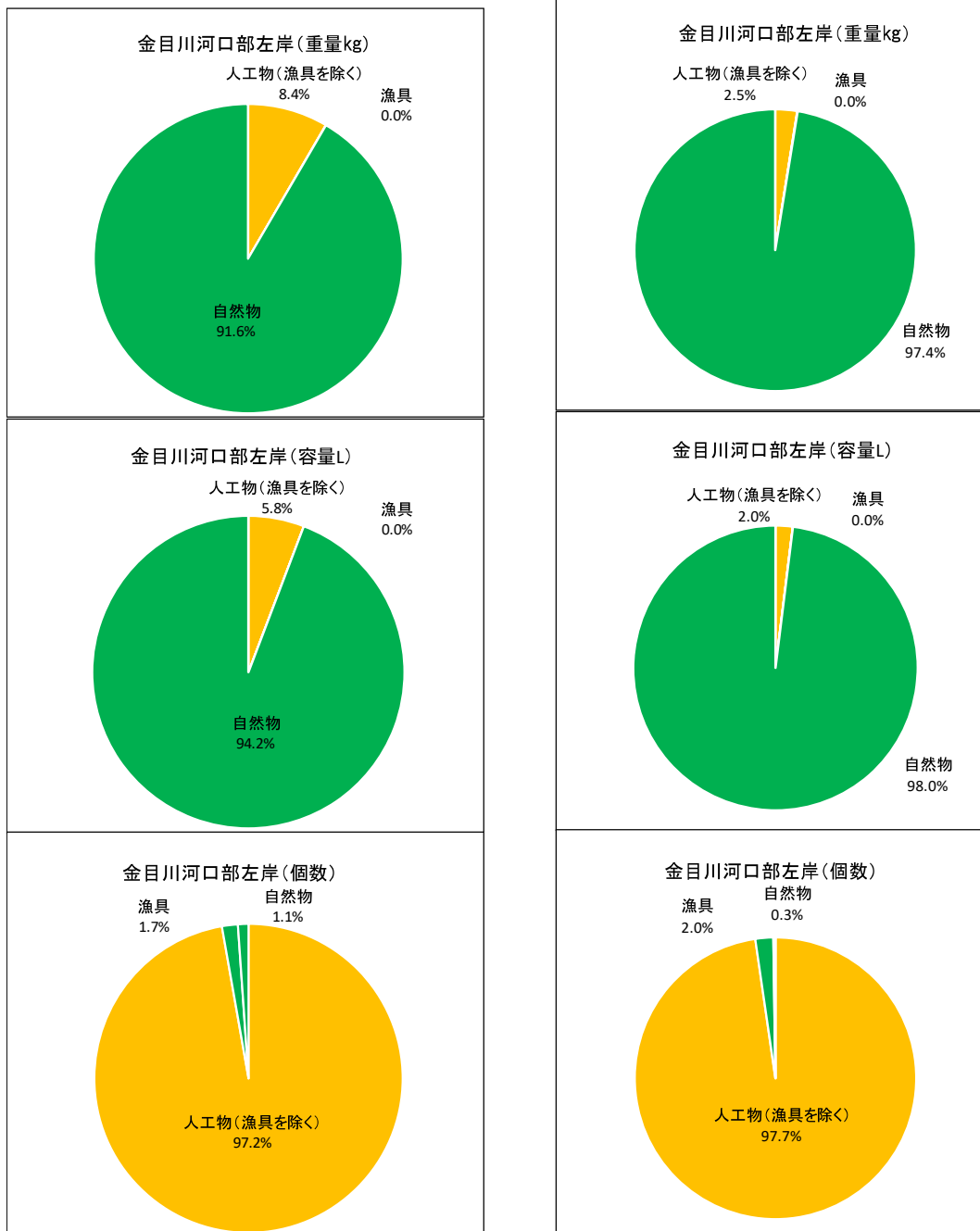


図 2.3-2 (1) 3分類別の組成 (左側: 本年度調査、右側: 過年度調査 (R3))

表 2.3-1 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R2)、右側 : 過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.23	1.7	19	人工物(漁具を除く)	1.57	14.4	148
漁具	0.00	0.0	2	漁具	0.00	0.0	2
自然物	5.06	90.2	2	自然物	86.61	1,297.2	56
合計	5.29	91.9	23	合計	88.18	1,311.7	206

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

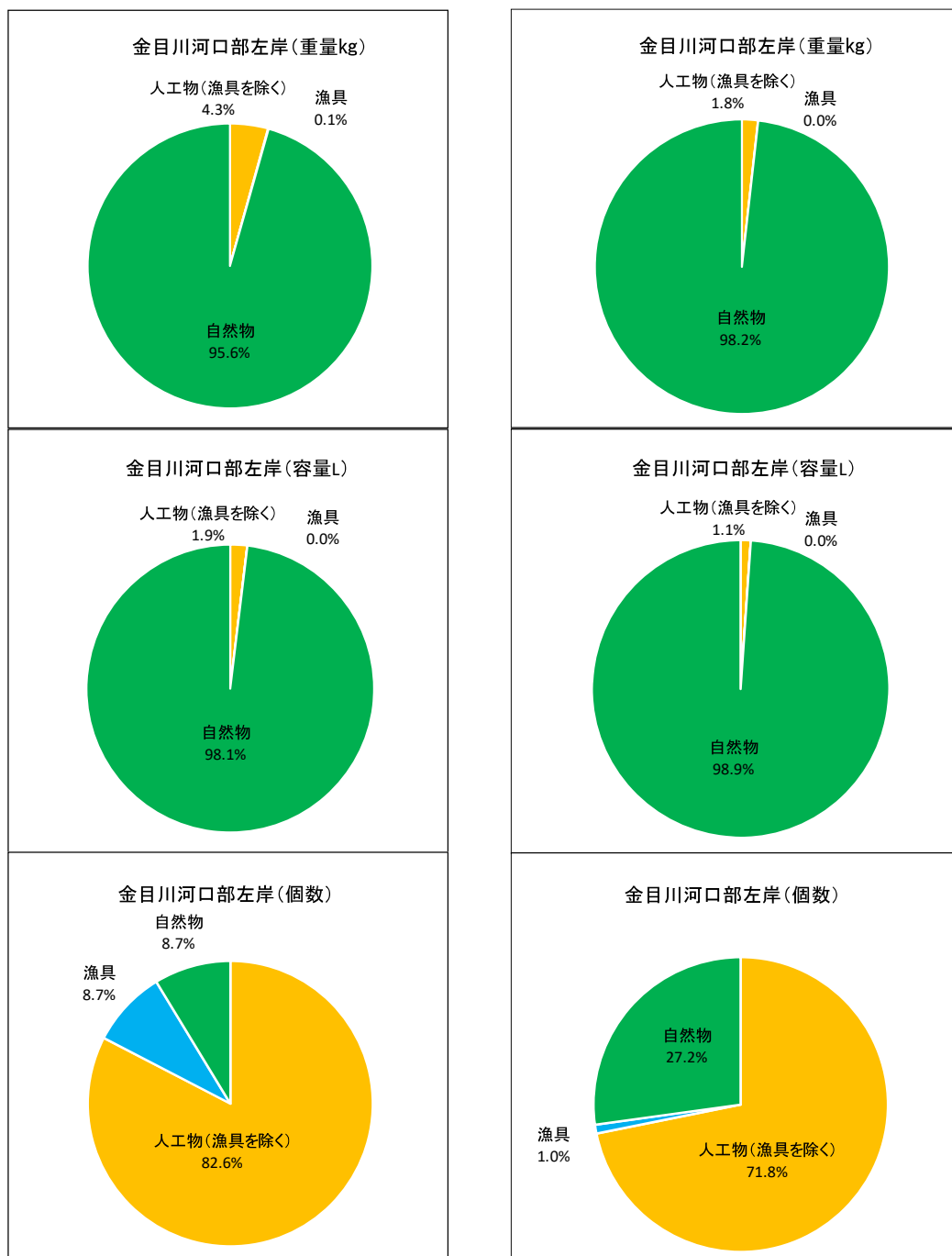


図 2.3-2 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R2)、右側 : 過年度調査 (R1))

表 2.3-2 (1) 人工物の大分類別の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.60	8.1	218
発泡スチロール	0.04	2.1	75
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	0
金属	0.01	0.2	8
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.41	8.0	1
木・木材系	1.58	4.9	39
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.03	0.5	18
人工物合計	2.68	23.7	359

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.36	35.3	358
発泡スチロール	0.03	1.2	8
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.10	0.3	1
金属	0.18	0.7	5
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.07	0.3	2
木・木材系	0.84	4.0	8
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.05	0.4	8
人工物合計	2.62	42.0	390

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

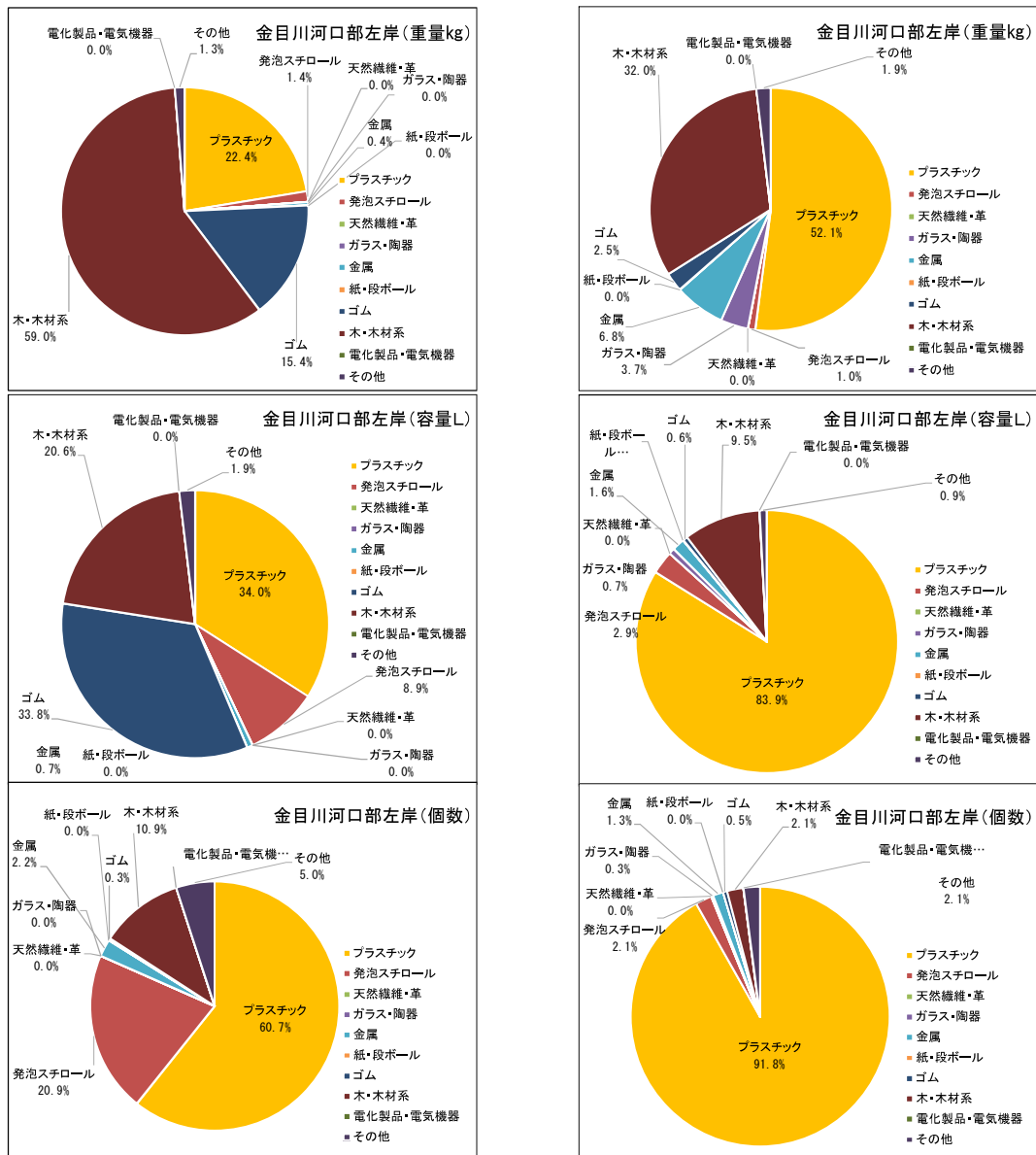


図 2.3-3 (1) 人工物の大分類別の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

表 2.3-2 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.07	1.3	11
発泡スチロール	0.01	0.2	2
天然繊維・革	0.00	0.0	1
ガラス・陶器	0.10	0.1	1
金属	0.01	0.1	3
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	0.03	0.1	2
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.1	1
人工物合計	0.23	1.7	21

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.64	6.5	94
発泡スチロール	0.04	3.1	32
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	1
金属	0.16	1.0	10
紙・段ボール	0.00	0.2	1
ゴム	0.11	0.7	2
木・木材系	0.62	3.0	10
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	1.57	14.5	150

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

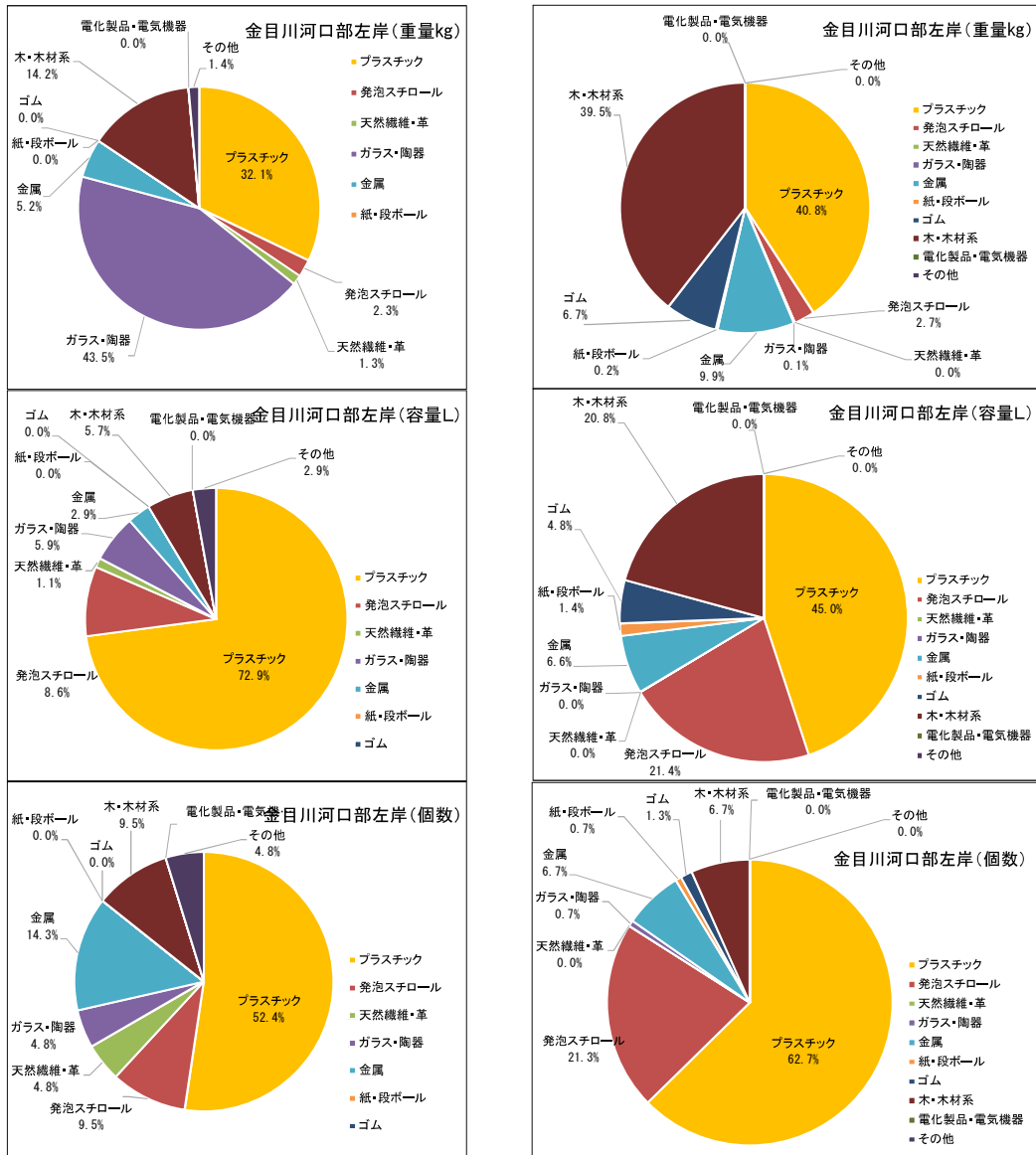


図 2.3-3 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

表 2.3-3 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.12	2.9	135	容器包装	0.27	11.0	145
製品	0.52	7.3	154	製品	1.07	25.3	213
漁具	0.00	0.0	4	漁具	0.05	0.1	8
合計	0.64	10.2	293	合計	1.39	36.5	366

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

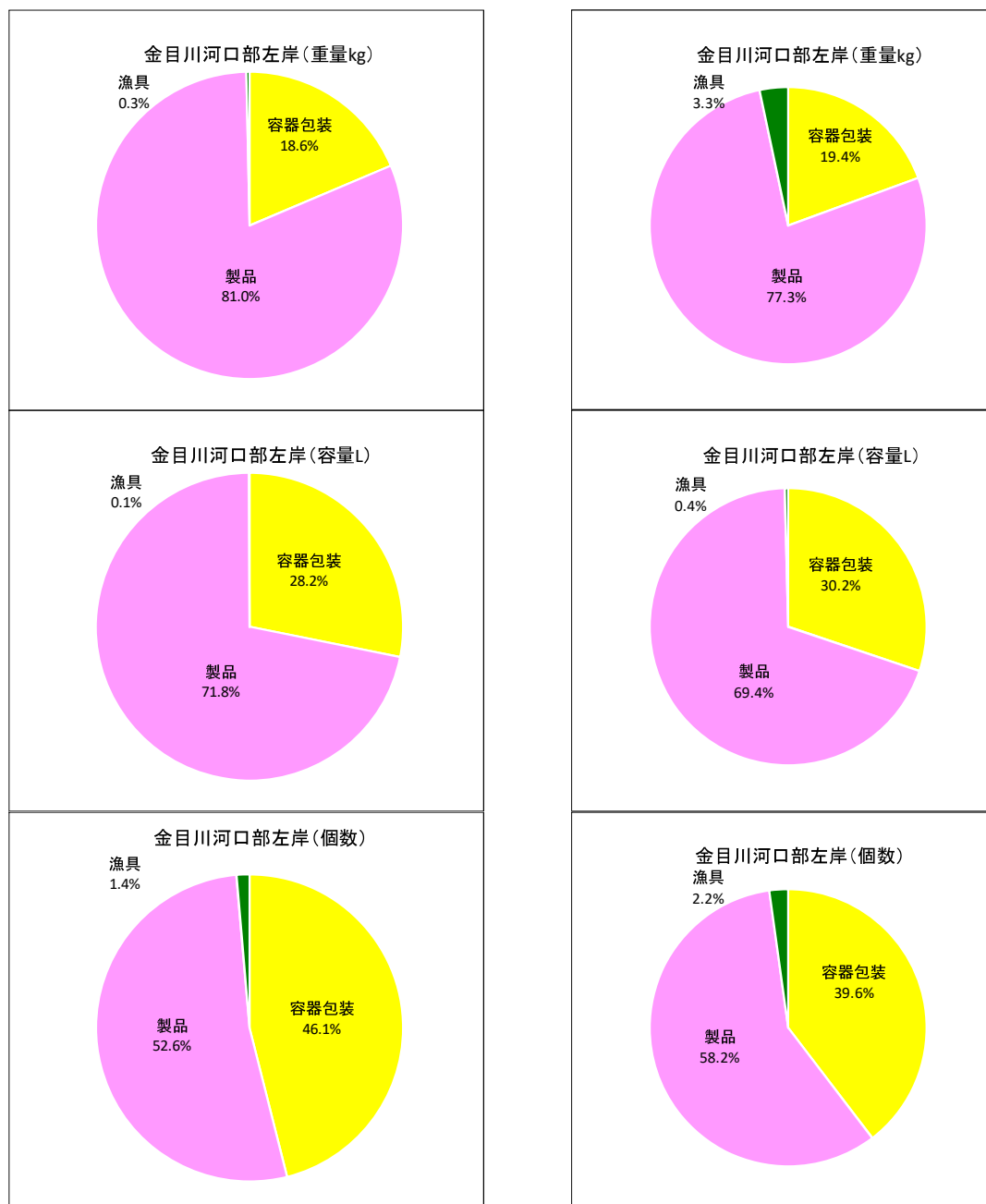


図 2.3-4 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))



表 2.3-3 (2) プラスチックの容器包装等の組成

(左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.05	1.2	6	容器包装	0.10	5.2	58
製品	0.03	0.2	5	製品	0.42	4.1	64
漁具	0.00	0.1	2	漁具	0.16	0.4	4
合計	0.08	1.4	13	合計	0.68	9.6	126

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

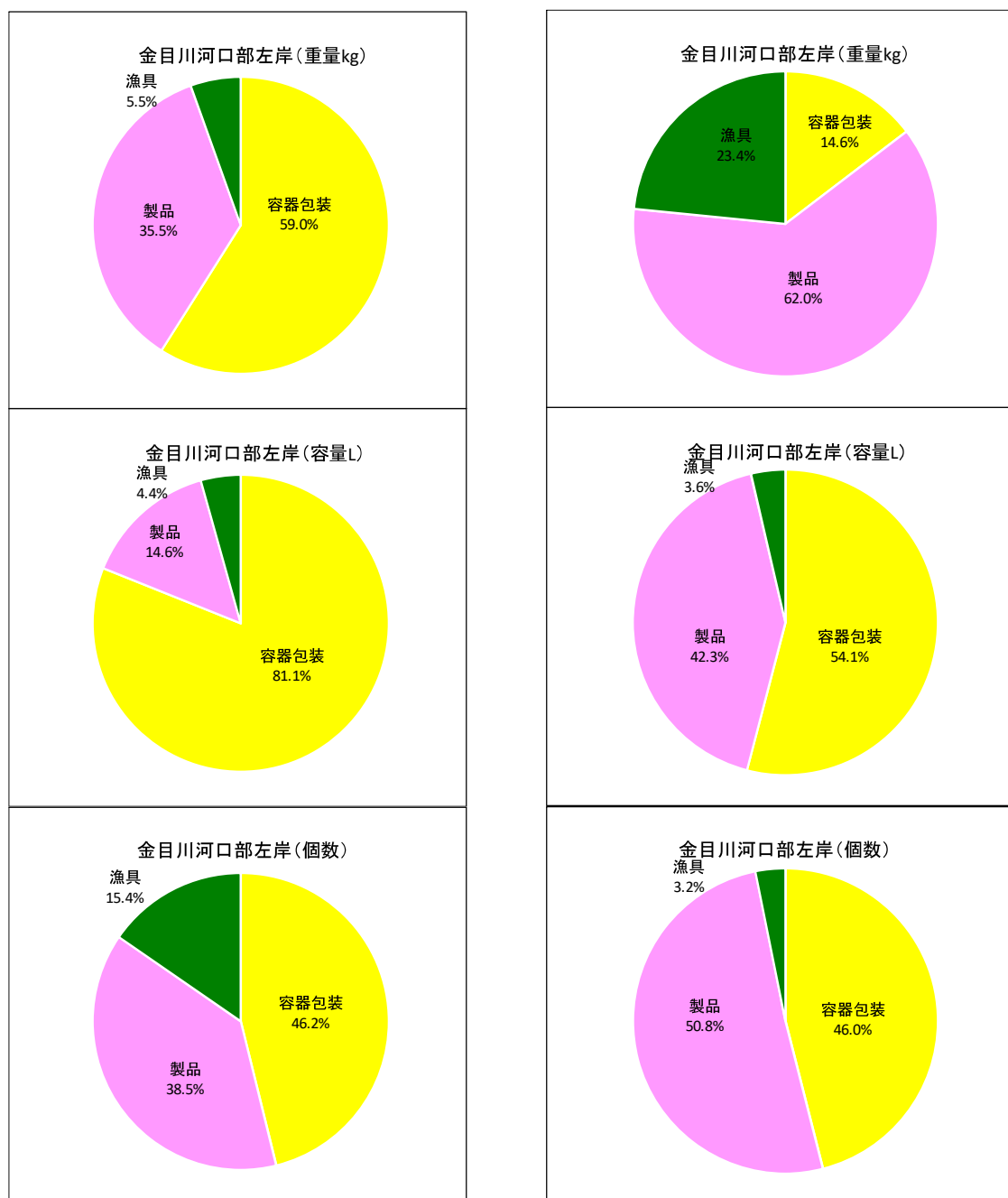


図 2.3-4 (2) プラスチックの容器包装等の組成

(左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

### 2.3.2 発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.3-4 に示す。

本年度調査では、日本のペットボトルのキャップ 5 個、不明の漁業用の浮子 1 個であった。回収された個数は少ないものの、日本製の割合が多かった。

過年度調査（R3）では、日本のペットボトル 1 個、日本のペットボトルのキャップ 4 個、不明 8 個であった。過年度調査（R2）では不明のペットボトル 1 個のみ、過年度調査（R1）では 1 個も回収できなかった。

表 2.3-4 製造国の特定結果

	ペットボトル	ペットボトルの キャップ	漁業用の浮子
日本	0	5	0
中国・台湾	0	0	0
韓国	0	0	0
不明	0	0	1
合計	0	5	1

## 2.4 酒匂川河口部右岸（小田原市）

### 2.4.1 組成調査

#### (1) 現地の状況等

酒匂川河口部右岸（小田原市）での状況写真は、図 2.4-1 に示す。

本海岸での清掃も比較的ゆきとどいており、大きな人工物の漂着ごみはほとんど見られなかった。しかし、現地清掃での回収の対象となっていないと思われる多量の灌木が見られた。その内側や下側に、プラスチック等が散在しており、これらが、主な人工物である。

過年度調査（R3、R2、R1）では、このような状況に加えて、大きな流木がみられていたが、本年度調査ではなかった。

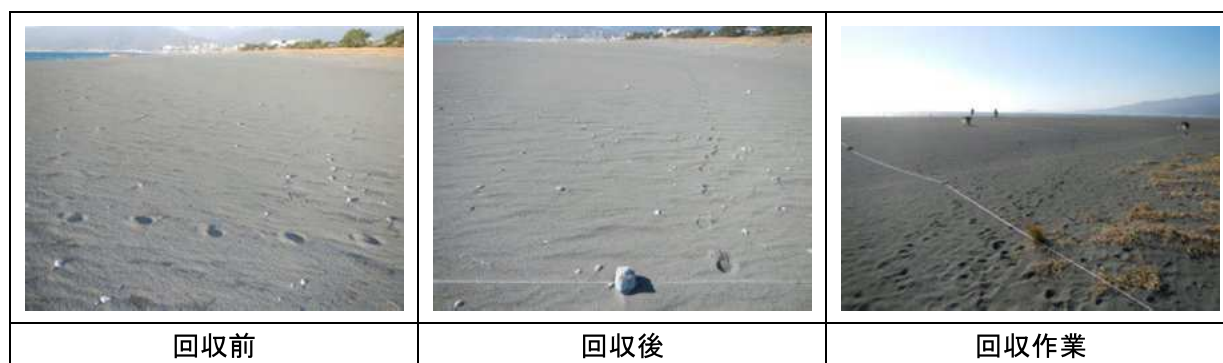


図 2.4-1 酒匂川右岸（小田原市）での状況写真

#### (2) 3分類別の組成

3分類別の組成は、表 2.4-1、図 2.4-2 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 30.18kg、容量 287.8L、個数 192 個であった。3分類別の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 61.9%、76.4%、個数では人工物（漁具を除く）が 98.4% と最も多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は灌木で、個数の多かった人工物（漁具を除く）はプラスチック（タバコ吸殻（フィルター））であった。なお、灌木の個数は環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R3）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 11.1 倍、容量で 5.1 倍、個数で 2.1 倍と重量、容量、個数ともに多かった。3分類別の組成は、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

過年度調査（R2）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 62.3 倍、容量で 19.9 倍、個数で 0.7 倍と重量、容量ともに非常に多かった。3分類別の組成は、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

過年度調査（R1）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 40.2 倍、容量で 10.3 倍、個数で 0.3 倍と重量、容量ともに非常に多かった。3分類別の組成は、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

本年度調査で回収された漂着ごみは、他の調査回と比較して少なかった。

#### (3) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.4-2、図 2.4-3 に示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量、個数ではプラスチックがそれぞれ 52.5%、66.3%と最も多く、容量ではゴムが 47.7%と最も多かった。この主なゴムは、タイヤ1本であった。

過年度調査 (R3) での人工物は、本年度調査の重量で 3.2 倍、容量で 2.9 倍、個数で 2.0 倍と多かった。人工物の大分類別の組成は、ゴムやプラスチックが多いことなどで、個数が類似していたが、重量、容量ではあまり類似していなかった。

過年度調査 (R2) での人工物は、本年度調査の重量で 2.7 倍、容量で 3.1 倍、個数で 0.6 倍と重量、容量で多かった。人工物の大分類別の組成は、個数がやや類似していたが、木・木材系が多いことなどで、重量、容量ではあまり類似していなかった。

過年度調査 (R1) での人工物は、本年度調査の重量で 0.2 倍、容量で 0.4 倍、個数で 0.3 倍と少なかった。人工物の大分類別の組成は、個数がやや類似していたが、木・木材系が多いことなどで、重量、容量ではあまり類似していなかった。

#### (4) プラスチックの容器包装等の組成

プラスチックの容器包装等の組成を表 2.4-3、図 2.4-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ 97.8%、87.2%、73.8%と最も多かった。

過年度調査 (R3) でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で 0.5 倍、容量で 1.2 倍、個数で 2.0 倍と個数ではやや多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、個数がやや類似していたが、容器包装の割合が多いことなどで、重量、容量では類似していなかった。

過年度調査 (R2) でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で 0.6 倍、容量で 4.1 倍、個数で 0.5 倍と容量では多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに類似していた。

過年度調査 (R1) でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で 0.1 倍、容量で 0.3 倍、個数で 0.2 倍と非常に少なかった。プラスチックの容器包装等の組成は、容器包装の割合が大きいことなどから、あまり類似していなかった。

表 2.4-1 (1) 3 分類別の組成 (左側 : 本年度調査、右側 : 過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	11.48	67.8	189
漁具	0.02	0.0	1
自然物	18.68	220.0	2
合計	30.18	287.8	192

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	37.26	196.5	383
漁具	0.07	0.1	4
自然物	297.30	1,282.5	16
合計	334.63	1,479.1	403

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

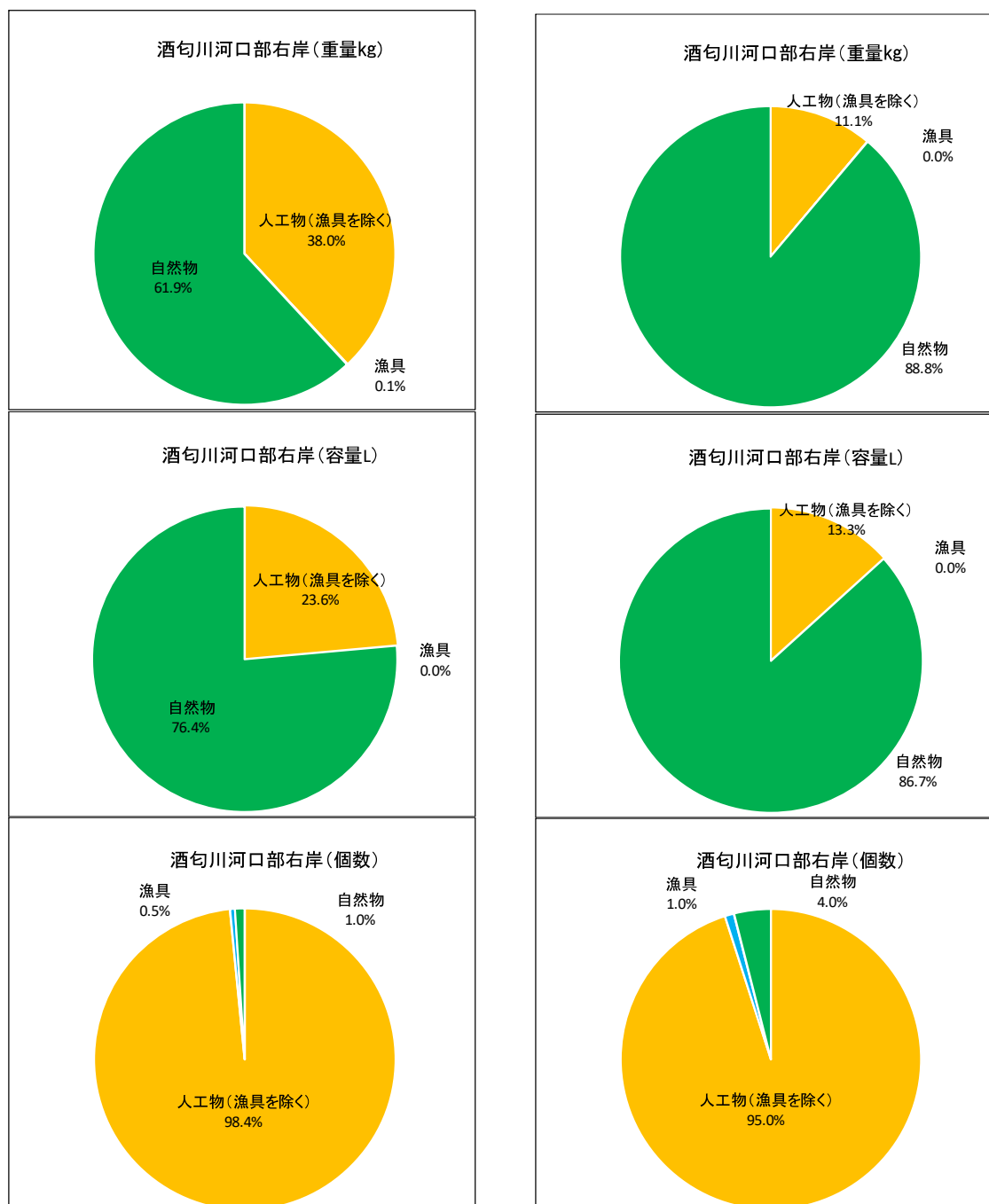


図 2.4-2 (1) 3 分類別の組成 (左側 : 本年度調査、右側 : 過年度調査 (R3))

表 2.4-1 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R2)、右側 : 過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	30.99	209.4	113	人工物(漁具を除く)	2.16	29.6	48
漁具	0.01	0.1	3	漁具	0.01	0.1	3
自然物	1,847.91	5,517.0	11	自然物	1,209.90	2,933.0	15
合計	1,878.91	5,726.5	127	合計	1,212.06	2,962.7	66

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

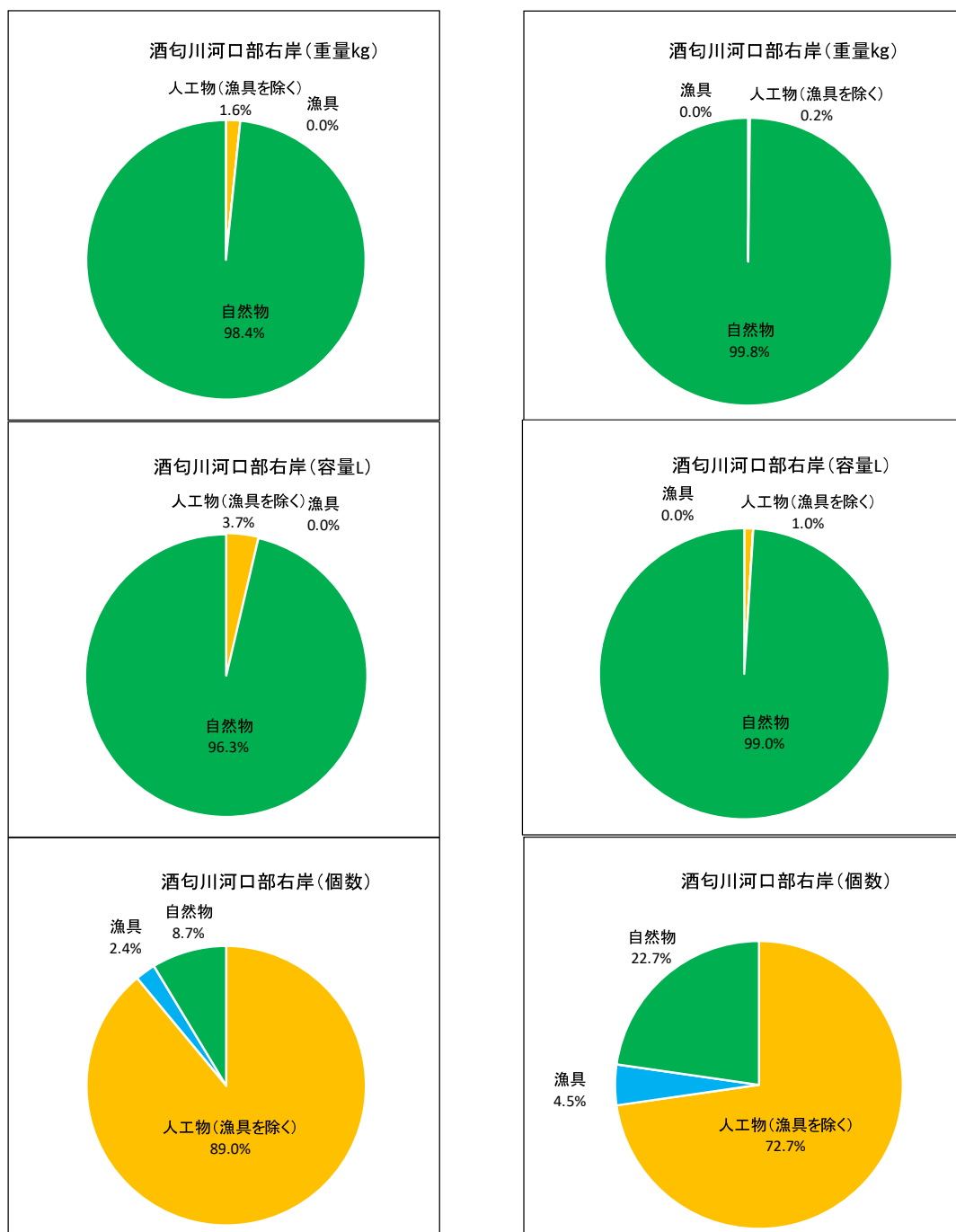


図 2.4-2 (2) 3 分類別の組成 (左側 : 過年度調査 (R2)、右側 : 過年度調査 (R1))

表 2.4-2 (1) 人工物の大分類別の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	6.04	25.8	126
発泡スチロール	0.00	0.3	4
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.46	0.3	2
金属	0.75	4.7	30
紙・段ボール	0.04	0.8	5
ゴム	3.72	32.4	11
木・木材系	0.08	0.4	5
電化製品・電気機器	0.31	2.0	3
その他	0.09	1.2	4
人工物合計	11.50	67.8	190

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	2.88	25.0	233
発泡スチロール	0.05	5.4	33
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.95	0.7	1
金属	1.46	20.5	52
紙・段ボール	0.08	1.0	29
ゴム	21.99	121.2	13
木・木材系	9.79	21.7	7
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.13	1.2	19
人工物合計	37.33	196.6	387

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

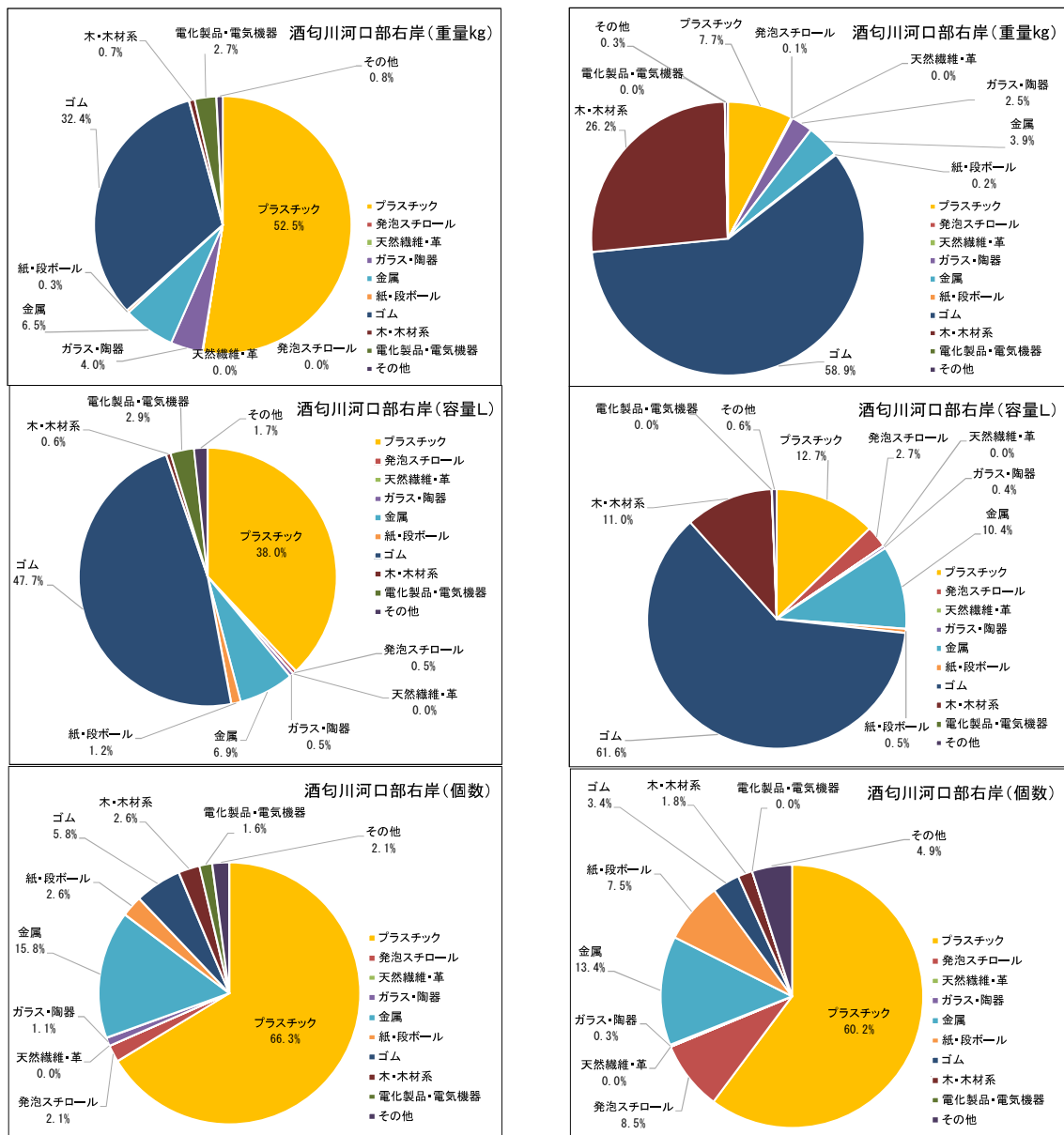


図 2.4-3 (1) 人工物の大分類別の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

表 2.4-2 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	3.61	106.3	61
発泡スチロール	0.00	0.6	1
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	0
金属	0.34	2.4	21
紙・段ボール	0.02	1.1	5
ゴム	0.14	0.4	2
木・木材系	26.87	98.5	23
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.02	0.2	3
人工物合計	31.00	209.5	116

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.26	2.6	25
発泡スチロール	0.01	0.3	1
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.02	0.0	2
金属	0.48	6.0	17
紙・段ボール	0.03	0.6	4
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	1.36	20.1	2
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	2.16	29.7	51

※ 1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※ 2 図も同様である。

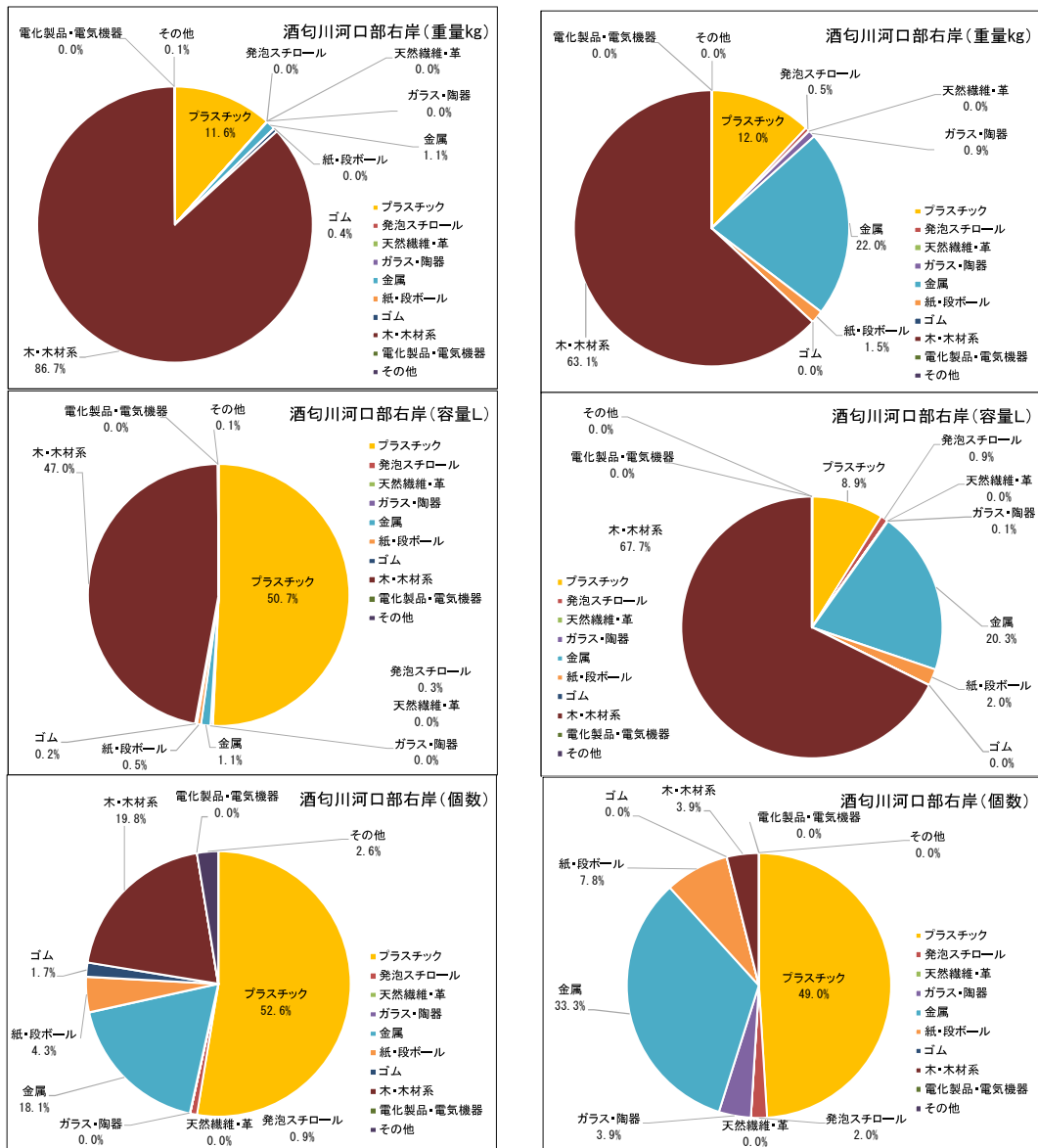


図 2.4-3 (2) 人工物の大分類別の組成 (左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))



表 2.4-3 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.11	3.3	33
製品	5.91	22.7	96
漁具	0.02	0.0	1
合計	6.04	26.1	130

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.67	18.0	85
製品	2.21	12.3	178
漁具	0.05	0.1	3
合計	2.93	30.4	266

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

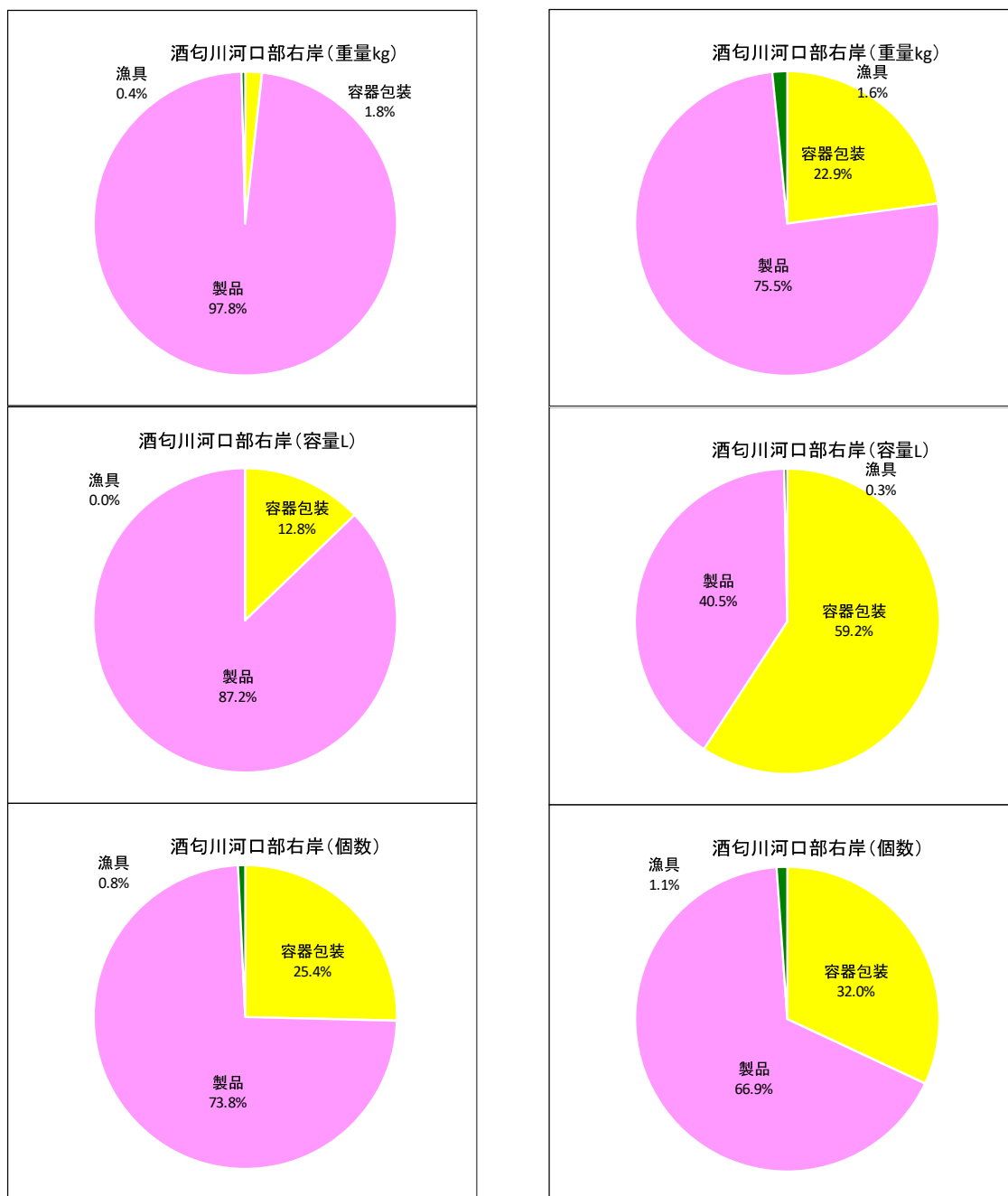


図 2.4-4 (1) プラスチックの容器包装等の組成 (左側：本年度調査、右側：過年度調査 (R3))

表 2.4-3 (2) プラスチックの容器包装等の組成

(左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.02	1.3	19	容器包装	0.19	6.2	15
製品	3.59	105.1	40	製品	0.18	1.6	14
漁具	0.01	0.5	3	漁具	0.04	0.1	2
合計	3.61	106.9	62	合計	0.41	7.9	31

※1 四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※2 図も同様である。

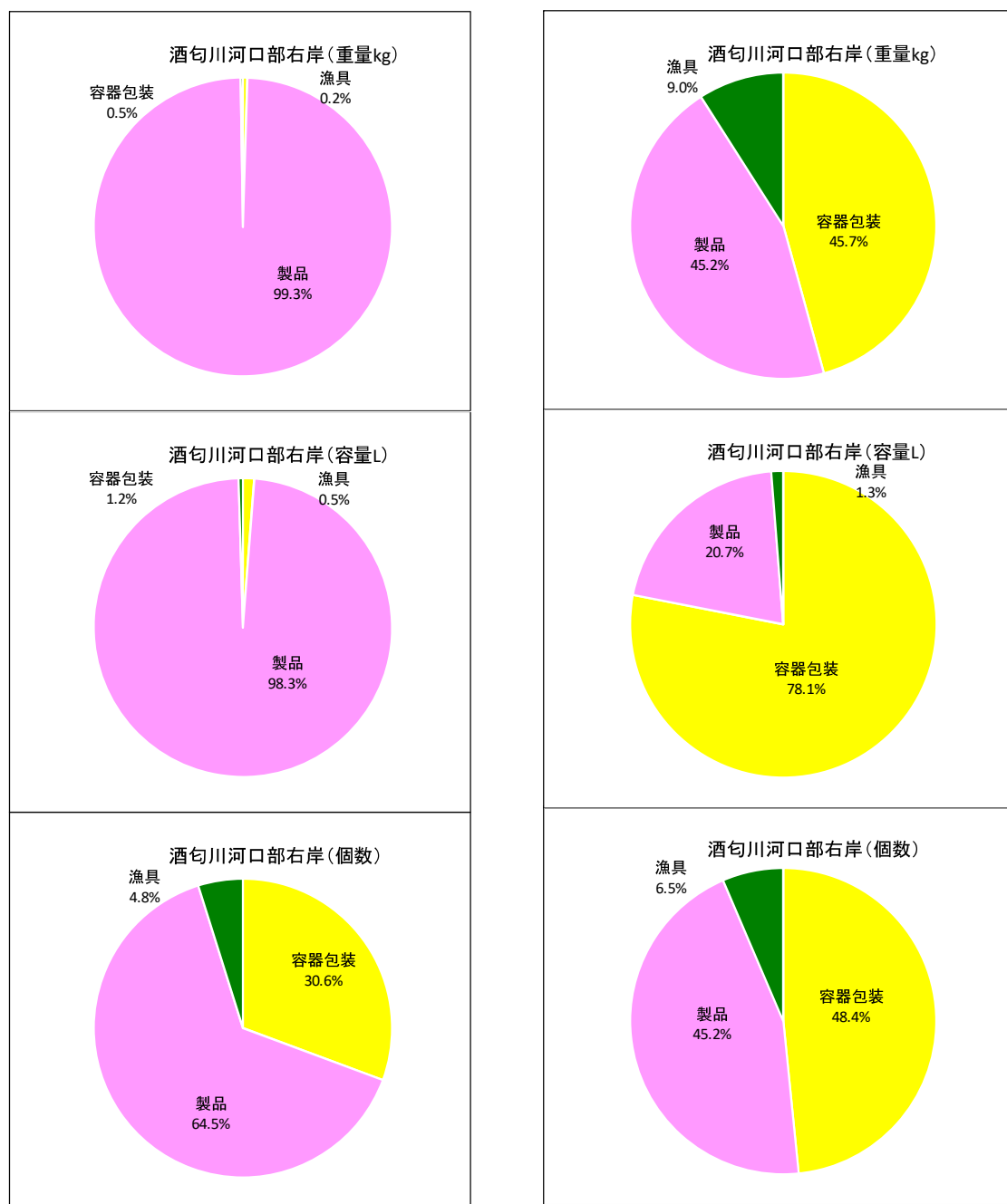


図 2.4-4 (2) プラスチックの容器包装等の組成

(左側：過年度調査 (R2)、右側：過年度調査 (R1))

## 2.4.2 発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.4-4 に示す。

本年度調査では、日本のペットボトルのキャップ 2 個であった。

過年度調査（R3）では、日本のペットボトル 2 個、不明 3 個、ペットボトルのキャップ不明 2 個であった。過年度調査（R2、R1）では、1 個も回収できなかった。

表 2.4-4 製造国の特定結果

	ペットボトル	ペットボトルの キャップ	漁業用の浮子
日本	0	2	0
中国・台湾	0	0	0
韓国	0	0	0
不明	0	0	0
合計	0	2	0